

ばんえい

昭和56年度

DRAFT.RACE

NO.12



Y.U.



風物

柔和な陽に映える

山麓の昼下り

雑草は雪を払うように 首をもたげ
馬群は雪を蹴散らし 飼をもとめる

雪舞う夕夜の

枯ればむ思いも 立ち続けた一夜も
今はただ 消えゆく雪の心

陽をもとめ 陽に向う 雑草のように
力感いっぱい ゴールに向う ばん馬

北国の

生命力であり 風物である

目 次

会報発刊に寄せて……………	3
順風満帆のばんえいに吹き荒む不況と天災の大嵐……………	4
オーストラリアの競馬……………	8
ばんえい雑感……………	13
マスコミに取上げられたばんえい……………	16
ばんえい競走現役馬からの種雄馬購買馬……………	21
ばんえい競馬の今後を求めて……………	22
ばんえい便り……………	25
ばんえい競走広報活動実施状況……………	29
ばんえい競馬場紹介……………	30
子供の増加したファミリーばんえい……………	31
勇退にあたって……………	32
北見の思い出……………	33
各地の祭典ばんば……………	35
昭和56年度北海道市営競馬協議会馬産奨励事業奨励者名簿……………	38
番組編成要領……………	45
昭和57年度報償費……………	46
昭和56年度市営競馬成績……………	47
昭和56年度道営競馬成績……………	47
昭和56年度種雄馬ランキング……………	48
昭和56年度賞金受賞ランキング……………	49
昭和56年度引退馬(表彰馬)……………	50
まだ日本に輸入されたことのない馬の紹介……………	56
昭和56年度リーディング……………	57
キヨヒメ号農林水産大臣賞典制覇する……………	57
昭和57年度市営競馬日程表(予定)……………	58
昭和57年度道営競馬日程表(予定)……………	58

会報発刊に寄せて



北海道市営競馬協議会

会長 坂 東 徹

全業種にひろがりいわゆる不況倒産型であり、今や経済ピンチであります。不況に競馬が強いとよく側聞した言葉であります。そのリンクスも今はもう昔語り。競馬は社会のハデな主役となり、今まで不況の大波、小波も容易に乗越えてきただけに危機感が薄い。今までの不況を素通りできたのは、経営努力や合理化のものといひ難いという厳しい言い方もされております。

昭和五十七年度の会報発刊にあたり謹んで皆様方の御健勝をお喜び申し上げます。

さて、今後の景気と地方競馬を考えると、特に今年は厳しい年の幕開けということになります。

新聞等の記事によりますと『今日のような時代こそ不とう不屈の精神が必要だ』『厳しい経済環境の中でこそ企業の力が問われる』『世界経済の行方は、なお樂觀を許さない。国内的にも財政再建など問題は山積。この中であつて厳しい変化の波に問われつつ各界の経営は決して平たんな道ではない』『他企業と同じ努力では勝てない。全員一丸目標に向かえ』『この暗いトンネルを生き伸びるため営業管理面の総点検をし、ぜい肉を徹底的にそぎ落とす』などと背水の陣を宣言しております。各業界のいくつかの社をあげたものでありま

すが、どれひとつをとりましたが、やはり経済が非常に厳しいことをさしたものであり、しかも各業界を通じて言えることは、社の運命をかけて徹底したその会社の在り方というものを総点検しなければならぬということです。

昨年、市営競馬をふり返つてみますと勝馬投票券発売額において二四八億円で前年対比九二、二%と市営競馬はかつてない低率を示し、史上最悪の年”になったものであります。確か毎年二〇%台の伸び率は地方競馬では平均的伸長比率でこれが全国競馬の好不況バロメーターであつたものだと思つております。ましてや市営競馬は、ここ数十年、伸びが当り前であつたわけでありませんが、不況の波をものにかぶるといふ事態をまねいたものであります。企業の倒産型は、いままでと違つて

市営競馬は、今年で三十年、これを契機に一人一人が厳しい時代に立ち向つていくという自覚をもつてそれぞれの立場で乗り切つていかなければなりません。それを私は『厳しい年の幕開け』だと考える訳です。幸いにして、長い歳月にわたつて陳情を重ねてまいりました開催回数増については、昨年十月にはんえい競走についてのみ三回増の省令改正がなされ、今年から四市五回催延二十回開催になり、パニックを乗り切る勇気を与えてくれました。これも関係者の努力の結晶でありました。悲観するばかりでなく意欲をもつて新しい魅力の競馬世界を模索し実現させようではありませんか。同時に人間の幸せは健康であることが原点であります。どうか健康には、十分注意して精一杯の努力を頂きますよう心から祈念いたします。

順風満帆のばんえいに

吹き荒む

不況と天災の大嵐

北海道市営競馬協議会

事務局長 鈴木 一彦

全体的な経済不況の波は、公営競技全般に押寄せ、特に地方競馬はその被害を強く受けた昭和五十六年度であったが、北海道も、春先の寒波で二年続きの冷害ムードの中で開幕、低調な滑り出しで夏を迎え、八月に入ってから記録的な集中豪雨と十五号台風のダブルパンチにあり、農作物は大被害を受けてしまった。一次産業に頼る度合の強い北海道の景気は、これですっかり停滞し、その中で競馬開催は、直接入場者と売上上の減少につながり、二十八年間順風満帆で伸び続けてきたばんえい史上で、初めて経験した一日平均売得金前年対比八七・二％(全国平均九四・六％)の不振な成績で終了した。

第一とし、執務体制の強化、ファンサービスの充実、競馬番組の斬新化等を図り、四月二十五日帯広競馬を皮切りに、十七回一〇二日の予定で開幕したが、年度途中に一開催の回数増が認められ、北見競馬場において、雪下一〇度近い寒風の中で、かつて経験したことのない十一月三十日までの長期にわたる開催となり、十八回、一〇八日の全日程を無事終了することができました。

開催回数

数年前から陳情し続けてきた開催回数増がやっと認められ、農水省は十月二十日付で競馬法施行規則の一部を改正する省令を公布、即日施行となった。

都道府県の区域ごとの年間開催回数を定めた同規則、別表第一のうち、北海道の三十四回を三十七回に改めたものであ

りますが、この三回は「ばんえい競走」についてだけの増回数であり、平地競走については、公営競技問題懇談会の答申の主旨に沿って、今後いろいろな問題を総合的に勘案しながら検討することとでありました。

ただし、年度途中なので今年の指示回数は一回増で、十一月二十一日から三十日まで、寒風吹き荒む最北の北見競馬場で開催することになった次第です。

- 回数増の理由としては、
- (1)ばんえい競走は他種公営競技との競合関係がほとんどないこと
 - (2)農用馬の生産振興に貢献していること

(3)開催回数が各市年四回で特に少ないので、その運営改善に資するため等が主なものでありまして、ばんえい競走に対する農水省当局の深いご理解に対し、衷心より深く感謝申し上げる次第であります。

売得金額

帯広、北見は五回三十日、旭川、岩見沢は四回二十四日、合計十八回一〇八日の開催日数で、売得金総額は、二四七億九六一一万円円で、昨年度大星の二五〇億円の大台を突破したものの、本年度は一回増にもかかわらず減少の憂目にあい、総額においては一回増の為、前年対比九二・二％に留まったが、一日平均前年対比では、八七・一％の大巾なダウンとな

り、ばんえい史上初の低調な成績となった。

各競馬場毎の売得金額は

旭川	六八億八一三六万円
帯広	六〇億二八九八万円
北見	五九億五七六〇万円
岩見沢	五九億二八一六万円
旭川	九六・二％
帯広	七六・六％
北見	八八・八％
岩見沢	九一・七％
四場平均	八七・一％

で、昨年全国第一位の北見と第二位の帯広は、共に秋競馬に期待をかけていたものの、気温の低下に平行して売上も低下の一途をたどり、特に帯広は八〇％を割り、全国ワーストNo.2のブリービーに転落してしまつた。

しかし、この様な低調ムードの中で、帯広最終回に実施したばんえい最大重賞競走の農林水産大臣賞典競走は、相も交らず人気は上々で全道からファンが集まり、一レースの売上、一億一四六四万円のレコードを樹立、これで四場共に一億一四六四万円の突破の念願を達成できたことは、暗い中での特筆すべき明るいニュースであった。

平地競走(道営競馬を一〇〇％)との比較は、一日平均売得金額において旭川 一六七・一％
帯広 一三六・〇％

五十六年度を顧みて

本年度のばんえい競走は、公正確保を

岩見沢 九六・四%

で、旭川と帯広は前年より低下したが、岩見沢は前年に引続き約5%増で、道営競馬にもう一步までに迫ることができた。

入場人員

昨年度は大量の五〇万人突破を達成することができましたが、本年度は一回増で辛じて五〇万人を確保できたものの、売上同様に低下し、

総入場人員 五〇七、五七七名

総数 前年対比 九四・八%

一日平均前年対比 八九・五%

で、一日平均は大中な低下を示し

各場毎の入場人員及び一日平均前年対比は、

旭川 一四二、一四七名 九九・四%

帯広 一二六、四五三名 七九・八%

北見 一一八、七八一名 八六・四%

岩見沢 二〇、一九六名 九六・四%

で、帯広と北見の大中な減少が目立ったが、旭川は横這い状態をやつと保ち、第四回五日目においては、一日入場者のレコードを、一、二、二四三名に書替えることができたことは、帯広のレース売上レコードと共に、貴重な二つ目のレコードであった。

近年女性と子供の入場者が年々増加の傾向にあります。入場者の総数は減少している中で、子供の入場人員は、三五、八五二名(前年対比一〇三・七%)と若

干増加したと、男性と女性の比率において、男性が八四・九%でマイナス〇・四%に対し、女性は一五・一%でプラス〇・四%となり、女性と子供の入場者の比率が年々高くなってきたことは、家族ぐるみで楽しむ「ファミリーばんえい」としては、大変喜ばしいことであります。

公正確保対策

昭和五十五年度から、他府県の一部競馬場において厩舎関係者が関与した不祥事件が続発し、世論の批判を受け、また本年度においても、禁止薬物の陽性馬が全国的に多発するなど、公正確保の再点検の必要に迫られていたが、七月十八日付で農林水産省畜産局長から「競馬の公正確保対策の強化について」次の様な通達が出された。

(1) 厩舎管理の強化

(2) 厩舎関係者の指導教育の徹底

(3) 禁止薬物の陽性馬発生の防止

(4) 騎手調整ルームの管理運営の改善

(5) 競走実施面の管理の強化

(6) 執務体制の整備

以上六項目の指示については、細部にわたる再点検を実施し、公正確保の推進に遺憾のないよう万全を期した。

また、年度当初からは、制裁基準の強化改正について全公営総会で改正案が承認され、全国統一案にばんえいも準じて改正し、一方、厩舎管理体制の改善とし

て、厩舎出入者のチェックの厳格化と厩舎自衛委員会の指導強化、騎手、厩務員及び厩舎内居住の主婦を対象とした研修教育の強化を図って開催をした。

ばんえい競走始つて以来、一度も達成できなかった一期間制裁処分的一件も無かつた公正な競馬を、第三回及び第五回北見競馬で二度達成できたことは、公正確保上特筆すべきことであつた。

なお、公正審判用競走監視VTRを一台カラー化し、判断の正確化と迅速化を図つた。

競馬番組

報償費の予算は年々増額され、本年度は二〇億円の大台を突破する約二億円を計上し、出走馬も一競走平均九・二頭に増加する等、充実した競馬番組をファンに提供することができた。

(一) 賞金

農林水産大臣賞典競走を最高峰に、岩見沢記念、旭王冠賞の三大競走が一着賞金六五〇万円に増額され、旭シルバークップの五〇〇万円と続き、三〇〇万円台が十三R、二〇〇万円台が十五R、一〇〇万円台が一〇R、合計すると一〇〇万円以上の特別競走を一四二R実施し、前年比一〇R増の充実した番組編成で開催することができた。

(二) 螢の光賞の重賞格上
昨年新設した引退馬(年令制限一〇

才)による特別競走の螢の光賞を、本年から一着賞金二五〇万円の重賞競走に格上げし、オープン、準オープンクラスによる一〇才馬一〇頭立て編成、競走馬としての最後のレースであり、熱の入つた好レースを展開し、キンボシ号が一着となり引退の花道を飾つた。

(三) 白馬賞の新設

平地競走に比較し芦毛の多い(約一三%)ばんえい競走なので、真白く雪化粧された競馬場で、能力の揃つた真白い馬だけの競走をさせるのも、初冬の競馬らしく面白いのではないかの発想から、本年最終回の北見競馬場で、芦毛馬の中から特に白い馬を一〇頭選抜し「白馬賞」として初の試みではあつたが、毛色指定競走を実施した。

銀世界の中に一本の黒い走路、一tクラスの白馬一〇頭が鼻から吹き出すS.L.並みの白い息、雪に映える勝負服、演出効果も上々の中での熱戦は、北海道ならではのレースとしてファンの大好評を得ることができた。

出走馬

出走申込頭数 一一二五頭
出走実頭数 六三九頭
新馬登録頭数 六一五頭
いずれも二〇〇三〇頭の増加の傾向が

みられた。

年令別出走実頭数は

三才 二〇五頭 四才 一二六頭

五才 九〇頭 六才以上二一八頭

で、四才五才クラスの二六頭増が目立つた。

年間受賞額の最高は、農林水産大臣賞典競走と岩見沢記念の二大重賞制覇の、

キヨヒメ号 二二八三万円

が古馬No.1に輝き、ばんえい史上初の年間二千万円、通算六千万円突破の二大記録と、名牝ダイニミハル号に続いて、牝馬ながら農林水産大臣賞典競走二回優勝の大偉業を為遂げた。

第二位はハヤホマレ号の一六七四万円、第三位はキヨウエイ号の一五八八万円であった。

五才馬では、十一戦八勝(含五連勝)大雪賞一着の

キングタロー号 一一四一万円

の活躍が目立ち、

四才馬では、ダービーと菊花賞の二冠に輝いた

ハイスピード号 一〇九九万円

が、昨年の三才No.1に続いて二年連続の王座を確保した。

三才馬は、イレネー記念一着馬

シゲノハラニセイ号 八四二万円

が最高で、二世ロッシー二号の産駒が、四年振りでNo.1の座に返り咲いた。

また、競走経歴種雄馬であるタカラコマ号の産駒は本年も活躍目覚ましく、三才馬能力検査合格率平均三五%を大巾に

上回る六六%で二年連続首位を確保し、出走馬二七頭中受賞額ベストテンの中に、三、四、六位の三頭が入る好成績であった。

馬体重量については、大巾な変化はみられず、本年最終計量の一頭平均馬体重量は、三才馬八六八kg(最高一〇一六kg 最低七三八kg) 前年対比四kg増、四才以上九三七kg(最高二〇七kg 最低七七四kg) 前年対比二kg減であり、一〇〇〇kg以上は四五頭で、三才馬はキタノカウオン号、四才以上ではマルダンサー号が最高重量であった。

騎手成績

調教騎手は四六名、騎乗騎手は三八名(新規二名)で本年度は開催したが、調教騎手勇退制度の実施で、本年度も十一月一杯で、木村与惣治、畠中芳勝の両師が、後進に路を譲り勇退されました。

騎乗騎手の成績は、工藤騎手が一〇二勝で第一位であったが、金山、山田両騎手に続き三人目の年間一〇〇勝以上騎手の誕生となり、取得賞金も一億六七五万円、金山騎手に続き二人目の一億円突破騎手となった。

金山騎手は、連続七年間一〇〇勝以上の大記録を続けていたが、本年はスランプで六五勝に留まったが、通算九七二勝なので明年度はばんえい史上初の千勝騎手が誕生することであろう。

新人の川原騎手は二六勝で☆印がとれ、

また鈴木正貞騎手も一九勝とよく頑張った。

馬産対策

昭和五十六年の本道における農用馬の飼養頭数は、終戦後留まることを知らなかった雪崩現象にストップがかかり、前年比九一〇頭増の一三、六〇二頭に増

加し、近年のばんえい競走の隆盛及び肉資源としての需要増に伴う生産意欲の向上、並びに昭和四十八年から実施してきた本会の生産奨励事業が、や々と実をむすんできたものと推察することができ、

種付頭数も昭和五十三年から増加の傾向が見られていますので、今後の推移としては、昭和五十五年を最低にして上昇カーブをたどるものと確信し、資源確保にや々と愁眉を開いたところでありませう。

軽種馬生産地域の日高に農用馬の生産熱が最近特に高まり、前年比三四一頭増(四四%増)を筆頭に、馬産に熱心な地域の十勝の四三三頭増、釧路の三五一頭増等大巾な増加を示しています。

全道各地の生産者は最近馬事振興会等を結成し、それぞれ農用馬生産振興に努力していますが、本年十一月に道東主要馬産地の農業団体が発起人となり、「北海道農用馬振興対策協議会」の発足をみる事ができ、農用馬生産振興に寄与する立派な組織ができたことは、馬産対策上大変喜ばしいことであった。

しかし、馬産熱の向上とは裏腹に、経

済不況は農用馬の価格に直接影響を与え、道内農用馬二才せり市場価格は下落し、平均価格では前年比七九%の約九三万円、最高価格では半額の四〇五万円と低調で、近年稍過熱気味に昇騰し続けた馬価格に、ブレーキがかかった年となったが、これが生産熱を冷えこませる導火線とならないことを祈りたい。

競走経歴のある種雄馬の産駒は、昭和五十四年度から急激に増加し、その競走成績は優秀なことも立証されていますが、三才能力検査合格馬二〇五頭中二六%の五四頭が合格し、受賞額ベストテンに五頭が入る好成績であったが、本年度も日本馬事協会はオープン馬ジヤスマン号以下六頭の現役馬を購入し、道内及び沖繩の農業団体に貸与した。なお昭和五十一年以降の馬事協会購買の競走経歴種雄馬は、合計十八頭になり、それ等の産駒が競馬で活躍するのを期待するところでありませう。

施設改善

電算化の遅れていた帯広競馬場に、四月からシングルユニット方式のトーターが導入され、道内四競馬場全部が機械発売となった。

旭川競馬場においては、パドック脇に大型オッズ表示装置が完成し、ファン的好评を得、また、昨年から実施した機械発売が、発売機の台数不足で窓口が混雑したため、緩和対策として発売機を三四

台増設した。

また、帯広、旭川両場に、発売が切れた時間表示装置を新設し、切替際の混雑緩和を図った。

北見競馬場の入厩可能頭数六〇〇頭が厩舎配分の基礎となっており、他場には一二〇頭程の余裕があるのにこれがネットで六〇〇頭に制限していたが、本年北見競馬場で厩舎を六〇馬房増設し、入厩頭数の増加を図ることができた。

旭川競馬場の第一、二コーサー外側に、四五〇台収容可能な第四駐車場が新設され、総駐車可能台数が三一五〇台になった。

帯広競馬場では、鳩の糞公害防止のためスタンドの屋根の下側に防鳩ネットを新設し、また、岩見沢競馬場では、公正審判室が改築され大変便利になりました。

ファンサービス

昨年の新企画として「ばんえいカレンダー」を馬主会とタイアップして制作、四月から十一月迄の変ったカレンダーとして好評を得たので、本年度は十二月分を一枚増加し、四月から十二月迄の九枚綴りとし、関係者及びファンに贈呈してサービスとPRに努めた。

北見競馬場では、ファンサービスと交通対策、場内の混雑緩和、ノミ行為の防止等を図るため、ばんえい競走初の試みとして、全開催について開催日の十二時

から第八競走以降のレースについて、連勝複式のみ前売を実施し好評を得た。その発売成績は、九八二五万円で連複売上に対する比率は、四・五%であった。

「ファン感謝デー」を各競馬場毎に一、二日間定め、趣向をこらした記念品の贈呈や北海道らしい馬鈴薯の焚出サービス、牛乳の無料サービス、アトラクション等を実施し、本年から岩見沢に続いて旭川、帯広両場でも日曜祝日のポニー乗馬サービスでチビッコの人気を得、また北見競馬場の電動式花馬車と道産カラ松材を使用したベビィハウスの新設は、子供とご婦人に大変な好評を得た。

昭和五十七年度に向って

かつて経験したこともない厳しい事態で終った昭和五十六年度のばんえい競走も、経済好転の兆しもないままに昭和五十七年度を迎えなければならぬが、意気消沈し手をこまねいているばかりでは到底発展が望めず、創意工夫をこらして運営改善に努め、経済回復までは「忍」の一字で堪え忍ぶ試練の年となりそうでありませう。

施行体制については、①省令改正に伴う三回増の二〇開催、②寒冷密集地域の承認に伴う火、水曜日の開催、③岩見沢帯広両競馬の連続五開催等、前例のない開催日程となり、執務員の増員強化の必要性にせまられ、執務体制の見直しと、職員四名の増員を計画し、施行体制の万

全を期することになった。

地方競馬の中央情報処理電算化システムに、ばんえい競走も同意し、昭和五十七年度から各場に端末機が設置され、複雑な事務処理の合理化、情報の有機的かつ多目利用による運営の改善等、時代に即応した電算化システム時代を迎えることになった。

公正確保については、公正審判委員用競走監視VTRがオールカラー化され、判断の正確化と迅速化を図り、また、発走委員室にもVTRが流され一段と公正競馬の強化が図られることになった。

競馬番組については、開催回数増に伴う報償費の増額で厩舎関係者の経済は安定し、また、重賞、特別競走等の増計画により充実した番組編成が可能となり、ファンに対し内容豊かな番組を提供して、本年度の沈滞ムードを跳返したいものである。

競走馬資源対策としては、本会の生産奨励事業とは別に、新規事業として重賞競走一着馬の生産者に対し生産者賞を支給し、また馬振興団体にに対し運営費の補助等も検討して、馬産意欲の促進を図ることになった。

ばんえい競走念願の四場相互場外馬券発売のテストケースとして、秋の北見競馬の場外馬券を帯広競馬場で発売する計画が前向に検討中であり、四場相互場外の夢が一步前進し、その大成功を祈るものである。

結びに

昭和五十七年度の競馬は、四月二十九日北見競馬場で開幕、二〇回、一二〇日を開催し、十一月二十三日北見競馬で終了する予定であります。悪夢の様な昭和五十六年度を、尺取虫の様にさらに前進する為のばんえい競走二十九年目にして迎えた苦難の一節と受けとめ、挫けることなくファンに愛される「ファミリィばんえい」として、一層の努力を重ねる決意でございますので、関係各位の絶大なご指導ご支援をお願い申し上げます。



旭川競馬場

オーストラリアの競馬

北海道市営競馬協議会

業務課長 大原 尚

オーストラリアは地球上最小の大陸であるとともに、唯一の単一国家大陸で、国土の総面積は約七六九万平方キロで日本の約二倍、人口は約一、四四二万人で大半はヨーロッパ系、人口密度は一平方キロ当り二人以下（日本は二八〇人）である。

上院と下院からなる民主組織の連邦政府は立法府であり、六つの州と二つの特別地域（首都特別地域、北部特別地域）は、それぞれの地方議会のもとに独自の自治活動を行なっている。

競馬のルーツ

オーストラリアの競馬のルーツを探ると、一七八八年、イギリスより一隻かなる船団がボタニー湾に入り、開発の根拠地としてシドニー市を建設したが、そのうちの一隻ファースト・フリート号に七頭の馬が積まれていたことはあまり知られていない。

その一〇年後に、サラブレッド種雄馬ロッキンガムを本国から輸入するに及んで、今日のオーストラリア競馬の礎石がおかれたことになる。

最初の競馬は一八一〇年シドニーのハイド・パークで行なわれた。

現在、すべての州で、平地競走と速歩競走が施行されており、また障害競走はビクトリア、タスマニア、南オーストラリアの三州で行なわれている。

競馬クラブと競馬場

オーストラリア全土に、六一九の競馬クラブがあり、その上部組織として、各

州ごとに単数または複数の主幹クラブ（Principal Club）によって総轄される。

主幹クラブは自ら競馬を開催すると同時に、管轄内の競馬クラブの登録、競馬開催の日割、番組の認可、馬主の登録、調教師、騎手の免許、州競馬施行細則の制定、上訴の裁定など州法によってその統轄権を保証されている。

全国で一二ある主幹クラブの合議によつて「オーストラリア競馬施行規程」が制定され、競馬施行の基本的事項については、全国的に画一適用されている。

また、一二の主幹クラブのうち、ニュー・サウス・ウェールズ州のオーストラリアン・ジョッキークラブ（シドニー市）とビクトリア州のビクトリア・レーシング・クラブ（メルボルン市）が共同で血統登録書の刊行及び馬名登録を行なっており、オーストラリア競馬機構の中で中心的存在となっている。

競馬クラブは非営利・会員制で、各クラブの運営は、会員の選出する委員会（Committee）が中核となり、事務長が事務を管理している。

競馬場の数は、全国で四六四場あり、年間三、五〇七日間競馬が開催され、開催規模は人口比でみると、世界一である。

しかし、六一九の競馬クラブで運営される競馬は、都市競馬（Metropolitan Club）と地方競馬（Country Club）とに二分され、所謂、競馬場の施設、売上げ、賞金額、施行面など質量で一流の競馬を行なっているのは、全体の割にもみた

ず、その大部分は牧歌的なもので、ピクニック競馬といわれ、施設も整備されておらず、その較差には驚惑する。

競馬場の本走路は全て芝馬場で、右回り、左回りと各様である。今回研修した、フレミングトン競馬場、モーフエツトビル競馬場は左回りで、一、二〇〇メートルの直線コースを設けている。

競馬番組

オーストラリアの競馬開催は、金曜日と日曜日以外の日に開催されるが、通常土曜日、祝祭日に実施されることが多い。オーストラリアの最大のレース、メルボン・カップは一月の第一火曜日に実施される。

オーストラリアの番組上の特徴として、
1、オーストラリアは南半球に位置するため、日本とは四季が反対で、馬の誕生も八月〜十一月頃と北半球に比して半年の遅れがあり、競走馬の年齢は八月一日を起算月日としている。

2、一日の競走数は九レース以内
3、競走距離は「都市競馬においては、一日に一マイル以上の競走を少なくとも三競走以上、そのうち一競走は少なくとも一¼マイルとする。
四才馬以上の競走は、六ハロン以下の競走は行なわれない。」とのローカルルールがあり、一、二〇〇メートル〜一、六〇〇メートルを中心に、概して短距離が多い。

4、ハンデキャップ競争が多く編成されておらず、三才競走の平場、重賞競走に

もハンデキャップ競争がある。

なおハンデキャップ競走の最小負担重量は四一、五キロ(六ストーン8ポンド)を下らないものと規定されているが、都市競馬では最低四九キロで実施されている。

5、三才馬が古馬と混合で出走する三才以上の競走も実施。

6、四才馬のクラシック競走に驕馬の出走が認められている。

因に、昨シーズンのオーストラリアの最強馬、キングトントンタウン号(五才、一五戦一二勝)は驕馬である。

7、賞金額は、ローカル競馬での賞金総額六〇ドルのレースから、古馬の最高峰メルボルン、カップの本賞金総額三〇万ドルまでと多種多様である。

今回研修した西オーストラリア州の都市競馬(ベルモント競馬場9/26)と地方競馬(ノーサム競馬場10/1)を出場表で比較すると次の通りで、賞金額は思っていた以上に低額であった。

勝馬投票

オーストラリアでは、ブックメーカーに対する賭けが合法化されており、各競馬クラブが行うパリティエールと場内

研修当日の最高賞金

区	分	賞金総額	1着	2着	3着	4着
ベルモント	一七、〇〇〇 _{ドル}	一一、九〇〇	三、二三〇	一、五三〇	三四〇	三四〇
ノーサム	一、七〇〇 _{ドル}	一、一六〇	三四〇	二〇〇		

研修当日の最低賞金

ベルモント	六、〇〇〇 _{ドル}	四、二〇〇	一、一四〇	五四〇	一一〇	
ノーサム	一、二〇〇 _{ドル}	八一〇	二四〇	一五〇		

で共存の形で勝馬投票券を発売しており、また場外については、電話投票を含めてTAB(トーターリゼータ・エーシェンシー・ボード)が各州ごとに設置され、法律に基づいて投票券の発売を行う、三つの営業体がある。

パリティエール方式は、一八八〇年代ブックメーカーに手を焼いていたフランスで、パリの実業家オレルが賭事業者が売上の一定を控除して、残額を的中者に賭金高に比例配分する方法で、一八九一年六月、新競馬法によって唯一の適法賭事方式となり、現在に継承されている。

オーストラリアの最初の競馬は、一八一〇年で、それはイギリス人ブックメーカーの賭事の発生を意味した。一八八〇年代ブックメーカーのB・シーバーが即日払戻しを行なって一躍有名になり、各地に急速に発展し、長い間ブックメーカーの時代が続いた。

一九一七年パリティエールが、ランドウィック競馬場で初めて導入され、各州に拡がっていったが、クラブが場内で売上げる金額は微々たるものであった。競馬産業、州政府になんら財政的寄与を

もたらさないブックメーカーに対し、競馬クラブは一九六一年ビクトリア、西オーストラリア兩州を皮切りに、クイーンズランド(一九六三年)ニューサウスウェールズ(一九六五年)南オーストラリア(一九六七年)タスマニア(一九七五年)と全土にTAB方式が普及していった。

現在オーストラリア全土にTABが一、六五〇店(人口約九千人に一店)あり、そのうち代理店は、一〇四店と全体の六七%を占め、残りはTAB公社の直営である。

なお、TAB創設を機に、西オーストラリア州とタスマニア州を除く各州は、競馬場外のブックメーカーを非合法とした。

しかし、ブックメーカー独自に揭示する配当率が主催者より高いせいもあって、依然根強い人気があり、パース市周辺の都市競馬では売上全体の四八〜五〇%を占め、全国平均においても、ブックメーカーの売上は全体の四五%前後になっている。

控除率は各州及び勝馬投票券の種類によって異なるが、一五〜一七%で、そのうち州政府納付金は五〜八・五%となっている。ブックメーカーは売上げの一・七%を政府に〇・八%を主催者に納付している。

勝馬投票券の種類は多彩で、単勝、複勝、連複、二重勝、三重勝の五種類は全場発売されており、州によって他に

トリフエック、カドラー、ビヤゴット、三連単勝、四重勝、六重勝等がある。TABの投票別売上げをみると、伝統的な単勝、複勝で五五%強、二重勝を加えると全体の八六%強となっている。

ツージャイ競馬場

ウエスト・オーストラリア州内には、競馬場が五二場、競馬クラブ五一あり、それらを統轄し、競馬の管理と監督をしている主幹クラブが州都パース市に事務所をもつ、ウエスタン・オーストラリアン・ターフ・クラブ(WATC)である。

ツージャイ競馬場は、パース市から北東約一五〇キロの丘陵地帯にあり、周囲は牧場と木立の緑に囲まれたピクニック



ツージャイ競馬場

ク競馬場である。

施設は鉄骨支柱にささえられた、二階のみがメンバー席、コミッティ室及び小さなバーとなっている建物が一棟、一五〇坪程の広さの屋根覆いのみの所に、発売窓口十二、端末機一〇台稼働の投票所、払戻両替窓口合せて四窓の払戻所（従業員は開催時に、アルバイト二三人雇用し賃金は一時間五ドル）があり、端の方にビル、サンドイッチ等を売るカウンタースタイルの売店、中央に円形に配置された三人一組のブックメーカー一三組が営業している建物が一棟、ツージャイ、ゴルフのクラブの看板のある食堂兼休憩所の平家と、競馬場に厩舎が無いので、牧場等からのレース輸送のための待機馬房兼装あん所馬房約七〇頭分などで、競馬場と

言うより、道内の地方家畜市場の感である。

競馬場の土地面積は七〇エーカー、走路は芝コース、左回りで一周一、六〇〇メートル、幅員一三〇一八メートル。

競馬の開催はウィークデーのみで、年間九日間行なわれ、一日平均の発売額は場内三万ドル、ブックメーカー一、八万ドル、TAB五二万ドル。入場料は二、五ドルで研修当日の入場人員は、雨のせいもあるが四レース終了時で五〇〇名とのことであった。

外国からの訪問は我々が初めてとのこととで、WAターフクラブのサー・アーネスト・ステア会長（前日WATC研修時に会見）をはじめ、ノーサム・レース・クラブの正副会長、スチュワードのジョニ

イズ氏の大歓迎をうけ、開催中にもかかわらず終始行動を共にし説明を受けた。また、テイタイムの時や、メンバー席のバーでは着飾ったコミッティの婦人や令嬢たちの暖かい家庭的な接待を受け、競馬場がカントリーでの社交場であることを痛感した。

レースは一日八レースで、発走時刻は第一レースが二時五十分、最終レースが十六時五十分。出走頭数はレース平均一〇頭で、一、三五〇メートルの競走が五レースもあり、短距離中心である。レースの合間に木立の中の装あん所を、兼ねている特機馬房に行くと、ヒール調教師が握手をもとめ、あなたは日本のジョッキーか」と人懐っこく話しかけてきた。立入制限はなく、ハイヒール、スカ

ート姿の女性や子供達もあり、特に女性事務員の多いのが目についた。

今開催は、トレイナー二五人、ジョッキー二〇人いるが、今日は雨が降っているので乗りたくないという騎手達を宥めるのに苦労したよ」とオーバーなジェスチュアでスチュワードのジョニイズ氏が話していた。

賞金総額は一レース当り一、二〇〇ドル一、七〇〇ドルと極めて低額で、賞金は三着まで支給される。配分比率は一着六八%、二着二〇%、三着十二%で、四着以下には二五ドル支給されるだけである。

モーフェットビル競馬場

モーフェットビル競馬場のあるアデレードは、南オーストラリア州の州都で人口八八万、オーストラリア第五の都市である。

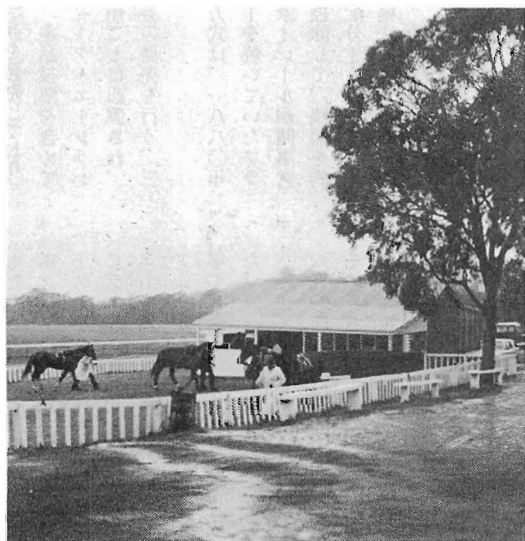
市街は洒落れた近代的な建造物と植民地時代からの公共の建物や酒場、住宅があり、古い伝統と近代美がとけあつた、落着いた港町である。

アデレードから東方六キロの郊外の緑地帯に競馬場があり、一八五五年にサウス・オーストラリアン・ジョッキー・クラブが出来てから一二〇年余の歴史を有している。

スタンドは、一九七九年七月に火事で一部を消失し、今年三月鉄筋コンクリート三階建の新スタンドを完成、旧第一、二〇〇席、新第一、三〇〇席の大スタンドの二棟からなっている。



ツージャイ競馬場（装あん所）



ツージャイ競馬場（下見所）

新館は一階二階は一般席、三階はメン
バー席に区別されており、一階に約二〇
〇窓、二階に五〇窓の主催者投票窓口が
設置されているが、いずれもカウンター
をはさんで対話できる開放的なものであ
る。

また、各フロアにはスナックバー、ス
タンドバーがあり、特に一階には男性専
用のバーには、女性入室禁止の標示がさ
れ、男達がグラスを傾けている様子は、
日本の競馬場では想像もできない風景で

ある。フロアごとにテレビが配置されて
おり、モーフエットビルのオッズ、レー
スは勿論、シドニー、メルボルンのオッ
ズやレース実況も放映されていた。
三階はメンバー専用のルームとなつて
おり、広いフロアにはゴージャスな絨毯
が敷きつめられ、スタンド側は全面ガラ
スで自由に出入ができる構造になってい
る。

モーフエットビル・レーシング・クラ
ブの会員は、二、三〇〇名で会員の職種
は、医者、弁護士等知識人が約一、〇〇
〇名、牧場主が約三〇〇名、ビジネスマ
ンが約一、〇〇〇名で、これら会員の選
挙により一三名の委員会が選出される。
会員になるには、現金員の三名以上の
推せん必要で、入会金は二〇〇ドル、年
会費二八〇ドル。会員の特権は、当該競
馬場の無料入場と、男性一名、女性二名
の同伴が出来ること、近郊競馬場にも無
料入場が認められる点で、全国のクラブ
も同様である。

また、会員数は定数制で、推せんがあ
つても欠員がなければ入会できず、会員
になることは大変なことでもあると同時に
、社会的な地位を得ることもなる。
モーフエットビル競馬場の年間開催日
数は三〇日間、一日平均売得金は、主催
者窓口二五万ドル、ブックメーカー一五
〇万ドル、TABが一八八万ドルで、こ
の内にはシドニー、メルボルンの場外分
も含まれているとの説明である。

ブックメーカーの数は、一階の屋外に

六〇社、二階に二〇社、三階メンバー席
に二社配置され、開催ごとに場所を移動
して、売上の平均を図っている。
番組の構成は、年令、勝利度数、取得
賞金、ハンデキャップの四区分で、一日
のレース数は八レース、出走頭数は平均
一三〜一五頭、出走投票はレースの二日
前が通常で、大レースになると三日前に
行う。
研修当日の賞金総額は、一レース当り
最低四、〇〇〇ドル、最高が一六、〇〇



モーフエットビル競馬場 (下見所)

〇ドルで賞金は四着まで支給され、配分
比率は一着七〇%、二着一八%、三着
九%、四着三%と二着が重視されている。
なお五着以下には一頭当り二八ドルが支
給されるのみである。

当日のメインレースである、第五レー
ス、二時四〇分発走のサウス・オースト
ラリアン・オークスを細記すると、距離
二、〇〇〇メートル、負担重量五三キロ、
出走頭数一九頭、賞金総額一六、〇〇〇
ドルで内訳は、一着一一、〇〇〇ドル、
二着三、〇〇〇ドル、三着一、四〇〇ド
ル、四着四〇〇ドルであった。

競走馬はオーストラリア全土で三万頭
前後、南オーストラリア所属の登録馬約
三、五〇〇頭、調教師の数は、都市部に
居住している者七五名、地方に居住して
いる者八〇名、オーナー・トレーナーが
五〇名の計二〇五名である。騎手免許を



THE COMMITTEE
of the
SOUTH AUSTRALIAN JOCKEY CLUB

request the pleasure of the company of
Hisashi OHARA

at a BUFFET LUNCHEON
in the COMMITTEES' ROOM
at Morphettville, Saturday, 3.10.81

LUNCHEON WILL BE SERVED AFTER FIRST RACE (IF SEVEN RACES)
OR AFTER SECOND RACE (IF EIGHT RACES)

ばんえい雑感



地方競馬全国協会

野口保高

昭和五十六年十月八日―この日は、私の満六十八歳の誕生日に当り、又期間囑託として勤務した地方競馬全国協会を退任する日でもありました。

その直前、九月二十五日から十月三日を最終日とする、北見市営第三回北見ばんえい競馬は、私にとって、競馬生活最後の勤務であった。この開催が、無事故かつ制裁零の好成績に終了したことは、私の長い公正審判委員としての勤務中でも、稀なことであります。誠に清々しい思い出となり、特に、離任時に初めて経験したことで、終生忘れ得ない一快事でした。

この好成績(後刻仄聞する、北見の最終回も同様な成績の由)は、当然のことですが、調騎諸君の努力の結果であることは勿論で、正に称賛に値します。ばんえい競走にとっても、数少ない立派な足跡を残したことになります。

このような成績の累積こそ、結果的には、ファンに対して、迷惑をかけないことになり、信用獲得のためにも、望ましいことである。そして、無事故と共に、更に大事なことは、競走内容が充実し、

公正に実施された事が、立証されなければならぬ。

さて、私は、昭和二十八年以来今日まで、二十九年間、競馬に関与しました。その間、勤務の内容は、主として、公正審判委員であった。

今、手元にある記録を調査したところ、レースの着順判定回数は、概ね二九、五〇〇回の多数に及びました。その中、ばんえい競走については、約五、一〇〇回(八十七開催、日数にして五〇五日の勤務)という結果であります。

私の職務上のこととは言え、その数の多いのに、今更ながら、驚いております。この成績を無事達成できたのも、同時に勤務した多数の関係各位の、ご協力によるものと感謝しております。

今日のばんえい競走は、現在も尚、地方の農村で、毎年伝統的に実施されている「お祭りばんば」が土台となつて、競馬法制下に繰り入れられた結果、逐年施設全般の新改築、競走用具の改善と創意等、競走関係の内外共に、内容の充実を図つて、今日に至つたことは、周知のとおりである。

市営ばんえい競争発足当初は、前記「お祭りばんば」の域を脱し切れなかったやに仄聞しますが、昭和三十七年八月地方競馬全国協会に設立されて、馬主、馬の登録、騎手の免許など、地方競馬の全面的一元化が進み、又昭和四十三年、四市により設立された、北海道市営競馬協会の一元化が整備され、ばんえい競馬の将来に向う方針が、方向づけられ、一段と力強い飛躍の時代に入ったものと判断されます。

市営ばんえい競走発足以来二十九年、その間、幾多の試練と紆余曲折を経え、漸く、今日の繁栄に辿りついた。その過程は、正に、無から有を生むに似た努力の結晶である。

無論、見本とする、手本とするに足る競走様式も皆無の状況下で、終始、創意工夫と改善の上に改善を重ね、おおかた、今日のばんえい競走様式が、初めて一型式として、確立されつつあるのである。

昭和五十五年四月一日、地方競馬全国協会の業務方法書第五條第一項五号中(ただし)書が削除された。このことは、ばんえい競走発足以来、馬主と調教師、騎手、厩務員との職能分離を、猶予されていたことが、この削除によつて、速やかに、分離しなければならないことになったのである。今、明年中にも、完全分離実施に踏みきる段階の由であるが、分離達成して、初めて、ばんえい競走は、名実共に、競馬法に基づく、競馬本来の姿に、到達し得たことになる。

ここで、一言したいことは、次のことである。調、騎の完全分離は、昭和五十二年度騎手免許試験において、達成された。今、調教師は、其の任務を果たす責任が生じたのに(前述の馬主との職能分離は未完成ではあるが、既に分離時期については、指示されていた)、その後一部の調教師が、事故発生の際、自己の責任を、騎手に、甚だしいときは、厩務員にまで、転嫁して恥じない態度が散見されたのである。騎手や厩務員を、指導すべき立場の調教師の言としては、極めてお粗末の限りである。速刻、調教師の任を解いて貰いたいとまで私は思ったのである。直ぐに、「同時まで、お祭りばんば」的発走から抜けきらないのだ」と、揶揄するのが精一杯であった。

ともかく、いよいよ、ばんえい競争も、事務的には最後の大変革を迎へ、真に競馬本来の形態に達成しようとしている。達成の暁には、調教師は、調教師としての、騎手は、厩務員は、各々夫々の責任と任務を理解すること、この際精神的大革命(言葉は大きい)を起こし奮奮して貰わなければならないと思われる。

十年一昔という諺がある。私が、初めて岩見沢ばんえい競馬に勤務したのが、今から十一年前である。当時を顧みて、十一年後の今日、諸施設の新(改)築、ソリ、器具、その他諸々の創意と改善は、文字通り、隔世の感がある。

往時に比して、恵まれた現段階では、調騎諸君も益々活躍し易くなった。そこ

表1 第二障害を第1位で降坂した馬の入線順位頭数表

北見 競馬場	54年		55年		56年		合 計	
	第二回	第四回 (5日間)	第一回	第二回	第三回 (4日間)	第一回		第三回
1 着 (頭数)	22	18	24	22	18	17	28	149
2 着 (")	14	12	9	11	9	12	8	75
3 着以下 (")	24	20	27	27	13	31	24	166
合 計	60	50	60	60	40	60	60	390

表2

岩見沢 競馬場	54年		55年			56年			合 計		
	第二回	第四回	第二回	第三回 (2日間)	第四回	第一回	第二回	第三回 (2日間)			
1 着 (頭数)	29	22	27	13	30	31	36	30	27	11	256
2 着 (")	14	16	16	3	13	8	8	16	16	3	113
3 着以下 (")	17	22	17	4	17	21	16	14	17	6	151
合 計	60	60	60	20	60	60	20	60	60	20	520

表3

帯広 競馬場	54年		55年		56年		合 計	
	第二回	第三回	第四回	第二回	第三回	第一回		第二回
1 着 (頭数)	32	24	21	27	34	29	21	188
2 着 (")	14	15	14	10	12	17	22	104
3 着以下 (")	14	20	22	23	14	14	17	124
合 計	60	59	57	60	60	60	60	416

表4

旭川 競馬場	54年		55年		56年		合 計			
	第一回	第二回	第三回	第四回	第一回 (3日間)	第二回		第四回		
1 着 (頭数)	37	25	20	21	31	31	15	26	24	230
2 着 (")	13	17	16	17	13	7	8	18	12	121
3 着以下 (")	14	22	29	25	20	26	9	19	27	191
合 計	64	64	65	63	64	64	32	63	63	542

で、求められる事柄は、一に公正競馬に徹することである。競馬にとって第一条件である。公正と言う意味は、単に競走のみならず、諸君等の日常生活においても、要求されるに至った。さればと言って、聖人になれと言うのではない。普通人、簡単に言えば、一般人と同様で過さねばならない。

ところが、最近、厩舎内において委員長指示事項に大きく違反したり、冬期休催間に、競馬の信用を大きく失墜したりする行為などで一般人としての常職を逸脱して結果的に自ら破滅した例を、現実的に直視している筈です。その細部について、私がここに百万言を費やすのは、むしろ蛇足である。口で言うは易く、行うは難し、では困るのだ。前車の轍を踏まないよう、厳に注意が肝要である。

競馬において、公正とは、特に調騎諸君にとつては、正に生命線である。その公正を確保するための第一の手段は、法規を理解し、法規に抵触しないことである。しかし、法規の理解が充分でないことが多い。私の長い勤務中、法規について質問されたことは皆無であった。免許試験前の一夜漬の勉強では板につかない。法規は試験のための法規ではない、むしろ日常の行動に欠くべからざるものが示されている。テレビで、一日一善というCMがあるが、調騎諸君にお願いしたいことは、就寝前に法規を十分間、否二、三行でよい、勉強する習慣を身につけて貰いたいのである。

第二障害の登坂について
第二障害の登坂は、ばんえい競走の要

である。障害の登坂を如何にスムーズに推進できるか否やは、半ば勝敗の鍵を握ると言っても過言ではない。登坂時に騎手の意志に反して、後軀がよじれたり、そのため胸引き(又は棍棒)またぎが生ずる。この、またぎの常習馬に対処しては、癖馬扱いとして処置したため、最近では極めて少なくなった。しかし、依然としてよじれる馬は多く、そのために、登坂に時間を要し、時間超過のため失格となり、甚だしいときは競走を中止する。

私が、ここで指摘したい重要事項の一つに、手綱の使用法である。何と云っても、騎手の意志を直接馬に伝えるハミに接続している手綱が、唯一の競走用具である。馬に直結した手綱には、騎手の血が通っていると見なければいけない。扶助動作も勿論必要だが、扶助は扶助で

ある。第一手段としての手綱の使用法、馬の前進方向の修正維持、よじれの修正について、日常熱心に訓練を実施することが肝要である。

次に、第二障害の降坂につき、過去三年間私が直接、実戦を見て調査した統計が、表一〜表六である。

天候、晴れ、曇天、風、水分を計算に入れず、調査したものである。

第二障害を第一位で降坂した馬は必ずしも、ゴールに第一着に入線していない。表五、四場平均で示す通り、第一位で第二障害を降坂した馬の総頭数の半分以下が、第一着に入線したに過ぎない。第二障害降坂後の所謂直線については、馬の全力を出し切ることには専念しなければならぬのは鉄則である。しかし現実には、決勝線に至る馬、後続馬に競り抜かれて

表6 表1～表4に示された第1着入線馬(2B1位以降)以外の1着入線馬の2B降坂順位調査表

年度	54		55		56										計	率 (%)
	帯	旭	岩	北	旭		帯		岩							
2位	14	18	10	15	15	8	17	15	15	21	16	11	15	1	191	43.3
3	4	9	13	7	6	4	5	12	7	8	5	10	6	4	100	22.7
4	4	5	6	7	5	3	6	6	4	4	1	5	5	2	63	14.3
5	3	6	3	7	1	1	5	4	2	6	2	2	3	2	47	10.7
6		6	1	7	1	1	2	2	2			1			23	5.2
7		1					1					1	3		7	1.6
8	3				2		1		1				2		9	2.0
9																
10						1									1	0.2
計	28	45	33	43	32	17	37	39	31	39	24	30	34	9	441	100

表5 (表1～表4の集計表)

競馬場 入線順位	北見	岩見沢	帯広	旭川	計
(頭数)着1 (割合)	149 38.2%	256 49.2%	188 45.2%	230 42.4%	823 44.1%
(頭数)着2 (割合)	75 19.2%	113 21.7%	104 25.0%	121 22.3%	413 22.1%
(頭数)着3以下 (割合)	166 42.6%	151 29.0%	124 29.8%	191 35.3%	632 33.8%
計	390 100%	520 100%	416 100%	542 100%	1868 100%

いる実体を表は示している。騎手諸君の奮闘を望む。

表六については、第二障害降坂時の順位を示したもので、前馬との間隔時間などは考慮に入れてない。特に六位から以後の降坂については、順位は順位としても、かなり一団となって降坂したものを含む。

第二障害を二、三、四、五番手に降坂しても、第一着に入線し得る可能性が十分あることを肝に銘ずべきである。

胸締め覆革の装着について、調教師諸君の猛省を促したい。

競走中、ハミ環が、胸締めの部に嵌入する事故は、度々と発生した。その状況は既にファンの苦情も相つぎ、一波乱起こし兼ねない事態であった。調教師に対し、速やかに対策を講ずるよう指示したとき、二、三人を除いた多数の調教師の無策振りには落嘆させられた。幸い市協側が、急きよ現在使用中の覆革を考案して、半強制的に使用に踏み切った結果、事故は皆無の状況に達した。この際、私は調教師諸君に対し処置にあたり、もつと謙虚に素早く対処されることを望むものである。

反対のときは、反対の理由を明示せよ。反対もせず、対処もしないのでは、ことは処理されない。前進がないどころか一歩誤れば騒擾も起こしかねないこともある。

走路の砂塵についての考察

競走中、走路に砂塵の舞い上がる程度は、天候、特に風雨や走路の湿度等の関係により、一概に問題視する必要もないしかし、その程度が限度を越えて、濛々たる砂塵が発生したとき、レース中の人馬は雲の彼方に消えたと表現できる有様で、年間十数回に及ぶのが実情である。当然、私等公正審判委員の双眼鏡の視野にも現われず、競走監視用VTRさえも、映写不能である。

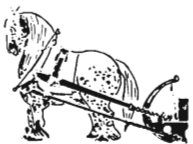
この状況下で、何時も私が不思議に思うことは、ファンからの苦情がないことである。ファンの苦情の有無に拘らず、迫力あるレース展開を見えない競走から、見せる(見える)競走にしなければならぬ。最も重大関心事は、公正確保上必要(重大な事故発生時に、解明することは不能で、時に競走不成立を宣する事態が生じかねない)な事は必至であり、かつ、人馬の保健衛生の見地からも、おろそかにできない。平地競走の特殊性などと、放置しておくべき問題ではない。その対策について再考されたい。私自身が勤務中に、何等の対策を樹立得ず去るに望んで、対策を依頼することは、全く忸怩たるを禁じ得ません。結果的に散水するよい方法がないとすれば、諸事情を勘案して散水の件を事前にファンに徹底の上、前日に実施することも一案かと存じます。

最後に一言申し上げたい。
調教師諸君よー競走に出走したあなた

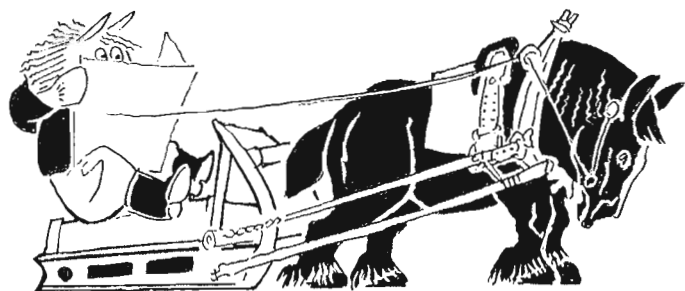
の管理馬が、優勝(一着入線のことです)できなかったとき、その理由(原因)を研究して、次の競走に備えて下さい。競走は、一着に入線することが目標であつて、二着以下の成績は調教師として誠に不本意の成績であることを認識すべきだ。

騎手諸君よー競走中のあなたの姿にファンは期待をこめて、その一進、一停、一挙手、一投足を熱い眼差しで見つめつつ声援を送っているのだ。五千の観衆、一万箇の眼があなたに、そそがれていることを忘れるな。一走一歩、敢闘を望む。以上、書き残した感じの想い出の記となりました。十一年間の私のばんえい競走の勤務は、アツという間に終りを告げました。ばんえい競馬は泥臭いとか、土臭いとか評されていますが、結構じゃないですか、北海道の土の中から生れた競馬であつて、現に多くのファンに支持されているのです。そのことは、昨年度の「ばんえい」誌報に「ファミリーばんえい」なる表現によく表現されている。いかにも和やかな、爽やかな感じが致します。

「ファミリーばんえい」の今後の躍進を祈る。



マスゴミに 取上げられた ばんえい



1、三月十一日 NHK・TV
PM七・〇〇

岩見沢の厩舎には、二二〇頭のばんえい馬が越冬した。春三月ともなればもうシーズンは目の先。連日、雪煙りを上げて調教が行なわれている。

古田寛造さんは、ばんえい十四年のベテランで、今年六歳になったトミイチ号の調教を始めたという。古田さんは、「冬の脂肪を取ることで、筋肉を軟らかくするのが調教の目的です。この子は素直なところがあってよい。しかし、馬だからそうでないときもありますね」と馬を追い始める。娘さんと「トミイチッ」と声援を送る。去年は成績不良、今年は是非、成績を上げたい、ばんばの調教が始まると春はやって来る。

2、三月十二日 NHK・TV
AM一〇・〇〇

「馬はどこからきたか」

朝鮮騎馬民族の流れではないか。古事記や日本書記の記録、弥生時代の古墳を見ると、その構築様式によって時代が判る。タテ穴式が多いが大きなものはヨコ穴式になっている。古墳から出てくる埴輪馬の馬具や、副葬品から察すると、馬のいたのは朝鮮に近い西南地方に多く、騎馬民族はその遊牧習慣から土地に同化し易く日本に渡来した。人も馬もそのまま住みついたのではないか。十五代の応神天皇は、朝鮮から渡来したと伝える人があるが、大和朝廷は渡来人に政治をまかせせることはなかった筈と学習院大教授

の黛広道氏は考古学の上から古代の馬を語り、馬の朝鮮渡来説を検討する。

この放送は、年明けて五十七年二月十一日、「建国記念の日」PM九・十五からのNHK・TV「歴史推理、巨大古墳の謎、韓国と古代日本」にも別の角度から推理してみせる。この日は同志社大教授の森造一氏の解説で、世界最大を誇る仁徳陵古墳修復時の出土品、河内平野の遺跡などから古代韓国騎馬民族との係り合いを推理する。出土品の中に古代の馬胃（馬の頭部、顔面を被う胃）があり、同じものが昨年韓国から見つかっている。

3、三月二十日 NHKラジオ

これは宮崎県日南海岸で、昭和三十二年頃からもう二十四年間も続いているという「馬車ひく馬の競馬」である。主催は市の愛馬同好会。二、三日前から縄を張ったり、石灰でコースを引いたり、天幕を張ったり、寄付を集めたりと前準備は多忙。

いよいよ当時になると乗馬したり、トラックに乗せたりしてやってくる馬は軽種あり、馬車馬あり、ポニーありで多種多用。

場所は県立公園そばの砂浜一三〇〇米である。初日三月十六日は予選十七レースが組れ、昨年より一レース多く、この競馬によせる熱意を伺わせる。参加者は遠く京都、和歌山からもやってくるという。翌十七日は干潮の頃合いを見計って開始し決勝が行われるという。

4、三月二十一日 NHK・TV

PM一〇・三〇

「夢は風の中に聞えるあの音」

これは国際エミィ賞ドラマ部門受賞作。主人公、志木栄子さんは、ことし小学校へ入学する。家は昆布馬（昆布の採取と運搬する仕事）で生計をたてている。しかし家が貧しく馬は売られる。馬のいなくなった昆布採取はつらい。片道一〇円の乗合舟に乗って今日も栄子さんは学校へ通う。売られた馬が欲しい、馬を買い求めたい、栄子さんの願いはやがてかなえられる。

出演する若い農耕馬はたくましく、印象的だ。

5、三月二十二日 STV・TV
AM一〇・〇〇

「雪原を行くばんばそり」

素晴らしい芦毛の重ばん馬がひく柴ぞりに、四人の写真家が乗り朝六時、吹雪をつけて北海道の山野を跋涉する。案内



は自然監視員の佐久間光男さん、深い雪に被われた山に入るとキツネやエゾゲラが待っているように、こちらを眺めている。雪渓をエゾシカが跳躍し、駆け登っていく。漸く山を下り丹頂鶴の舞う鉤路湿原に入る。終始、雪道をグイグイ引いて行く芦毛の太い肢はたのもしい。

6、三月二十四日 NHK教育TV

PM五・三〇

ジュニアシリーズ「世界の民族」

二頭引きの大型馬車は、フランスズジフシーが生活する家屋になっている。ここぞと思う場所に車をつけて設置すると、九畳六畳の室に二段ベッドをおき、台所もできる、室の中はカラフルで美しい。棚には食品、道具類が取められ、衣服は袋に入れてある。今のフランスには、こうしたジブシーが住んでいて流浪の旅を楽しんでいる一面があるという。子供の学校のことや電気、水道はどうなっているのか、概ね五、六人で生活しており、寝具などは羽ぶとんを使っている。商売はなんでもやるというが芸人らしい。死ぬと財産は焼いて死人を慰め、又新しい生活に入るのだという。馬は尾花栗毛の素晴らしい農耕馬、さすが重種の国フランスである。

7、四月一日 NHK・TV

PM九・四〇

シリーズ・シルクロード集

「天馬のふるさと」

また大馬群を見せてくれる。馬を喰い、馬を着る、馬乳をのみ、馬に乗り、馬に

引かせ、馬と遊ぶ。徹底した天山山脈の山、丘、野に群れる馬との生活である。縁を追って馬群が移動する。天山の山あいを行く旅は、牛羊の大群が白い鳥の群れのように動く。丘陵を駆け上り、駆け下りてくるのに、たびたび遭遇する。ウイグル地区に入れば見はるかす瓜の畑である。ウイグル族は六百年前から瓜の栽培技術を身につけ栄養源とし、湯きもいやしてきた。この地方はまた塩の産地として栄えた。天山は雪を溶かして水をつくり地中を流れる。塩は水と共に地表にしみ出し、みはるかす塩の山又山である。毎年七、八月にこれ採取する。

天山山脈は褐色を帯びた男性的な山岳だが、六〇〇〇米の山々が並び頂きには年中雪をいただく。その壮大な景観は正に天山の名にふさわしい。

天山山脈を越えれば、天山北路の要衝トルファンが見える。この北路を西へ西へと進めばやがてローマに通ずるといふ。突如として、はるかに馬群が緑の坂を

谷あい目にかけて駆け下りてくる。馬群を追ってバザルバザクの遊牧民たちが乗馬で疾駆する。娘も子供も母も老人と乗馬だ。激しい移動が終ると草原にバオを設け滞在する。馬乳をしぼり、馬乳チーズもつくる。この地方では百キロ平方位の草原を選び毎年市場が開かれ競馬が行われる。この日は買物客で大賑わいとなる。バザク族は西欧人とそっくりの容貌、まるでヨーロッパへ行つたよう。集まるのはウイグル族、錫伯族、ウズベク

族、キルギス族、ダホール族と民族の博物館のようだ。これみな中国人なのだからこの国の巨大さが判る。

彼等の生活は二千年前の習俗そのままだ。暑いときは七〇度ともなり、寒い季節には零下四〇度以下になるといふ。馬の脂肪は生命の糧、馬と別れてどうして生きられようぞ。牛羊の群と馬群は大体百頭から五百頭位だが多いものは千頭を超えるといふ。

8、四月十六日 NHK・TV

AM七・一〇

鹿児島島の海門町にある海門公園では県内宝島原産の時から馬を飼っている。始めは十二頭だったがだんだん殖え、ことしは四月になると三頭生まれ、四十一頭になった。あと二、三頭生まれる予定な



馬からと

ので、現在ふるさと島の宝島には二頭しかおらず、島の要望にこたえて二頭を送るといふ。日本馬は健在。

9、四月十六日 NHK・TV

PM九・二〇
ばんえいシーズン来る。帯広ばんえいの能力テスト風景を画面にのせる。これ



能力テスト風景

は五百キロの鉄ざりを曳き、どれだけ速く歩くかのレースである。最後の障害感えは、最大の難関。合格は僅か三分の一にすぎず、そのラインを突破するばんえいテストは厳しい。

10、四月二十八日 NHK・TV

PM九・三〇

この日のニュースセンターは「みちのくのばんえい競技」を取り上げる。出馬馬は六十九頭。丸太で観覧席が設けられ黒山の観衆で埋まる。これは仙台市郊外で行われた珍しいばん馬競技大会である。青森と同様二人馱法で一人は馬の口をとり、一人は土のうをつんだぞりのあとからむちで追う。馬はまだまだ必要、値段は高く、この大会で勝てば更に高値を呼ぶといふ。

11、五月二十一日 NHK・TV

PM 10:00

シリーズ・シルクロード

「騎馬民族の子孫バザック」

馬は少なくなった、いや、いなくなつたというのが本当かもしれない。しかし北海道の町村にはまだ馬の姿を見かける。

最近特に有名になった中国大陸のシルクロードは、我国では一寸想像もつかぬほどの広大無辺のスケールだが、そこには胸のすくような馬群が生息し緑の丘や草原を被い血色のいい発刺とした住民が馬を駆使している。

この日は天山路周辺の騎馬民族を紹介する。果てしなき大草原、天山山脈は東北のゴビ砂漠から端を発するが、道は次第に険しく山と樹木と緑に被われている。標高二千米、馬とらくだは主要な交通機関だ。らくだにも牛にもバオ資材をのせて進む。綿羊三百頭、馬百頭、牛五百頭の大移動、首領は鷹匠のアリンベック(六十五才)だ。

遊牧民バザックの心の歌にこんなのがある。

「天山は高く、広く、美しい
馬は走り、バザックも走る
羊は歩く、バザックも歩く
牛は寝る、バザックも寝る」

標高二五〇〇米の放牧地に辿りつく、バオを下ろし設営する。ここに一週間位落ちつく。山々には万年雪がある。朝は零下二度の寒さ。女達の牛乳しぼりで朝が始まる。暖かい牛乳と小さなパンで朝

食をとる。

鷹の訓練は鷹匠の誇りというアリンベックは六十五才。投げ縄で馬を捕える技術もうまい。
馬は二才からハミなど馬具つけの訓練で始まる。

娘さんは仔馬に乳をやり、羊の胃袋で作った袋に油を貯える。羊乳チーズは栄養に富み、その製法は母親に教えられる。母親のかぶる帽子の刺しゅうは美しい。

天山は聖なる神秘の山だ。峻峰はすこく、山雪は滝となって落下する。溪流は大地をうるおし動物を養う。

山道を行けば南方はるかに広大なタクラママン砂漠が見える。ここでもセリン湖畔に毎年市場が開かれ、人出で賑い少年競馬が行われる。

12、六月七日、STV・TV
AM 10:30

「初夏の信州旅日記」

旅の番組の「遠くへ行きたい」この日は信州の農耕馬と山菜料理を紹介する。

高遠町の田舎で水田づくりと山造材とブリ釣りが商売の宝さんの話。

宝さんは馬飼いを止めない、性来の馬好きもあるが水田と造材には欠かせぬ馬。

雨の日は休むが、馬は厩舎の裏戸をあけてほっておく。そこには原っぱがひらけ山に続いている。馬は逃げようとしな

丸太出しはテコで丸太を集め、大一本、小三本として丸太を組み、馬に引かして山を下りる。いつも通る道路には、馬頭観音と同相神が祀ってあり、迎えて

くれる。同相神は子供を叩いた祖母にた

たりがあつては大変とこれを建て、馬頭観音は使役馬の安穏と、昔の飼馬を葬うため明治二十九年に建立したのだという。

13、六月八日 HBC・TV
PM 2:00

バック2「父ちゃんが馬に代って走る。これぞ正しく人間ばん馬」

すっかりお馴染みになった置戸の「人間ばん馬」人間でも調教は激しく、奥さんは呆れて、好きなものならおやんなさいとあきらめる。うまいものを喰い身体をつくり、調教にはげむ。出場チームはそれぞれ組の名があり、トラック組、アドベンチャー物語組、陸別農協組といった具合である。一組は五人。

以前は街の本通りでやつたが、今は小学校の校庭で行われる。

高らかにファンファーレが鳴りわたりレースが始まった。直線コース八〇米、途中一米二〇の障害が二つある。コースを囲んで観衆は満員だ。長さ一八〇センチ位の丸太三本をズリに似たそりにのせてヨイショ、ヨイショと引つ張る。観衆も一縷になつてかけ声をかけ応援する。

若い者に負けてはおられぬとばかり、五十才前後の木村KK組も頑張つたが惜敗、あまり頑張つて痔がでたとぼやく、この人間ばん馬競争には副引式馬券?が配られたが、的中者はほとんどいなかった。

人間ばん馬は二月七日の日曜日陸別でも行われた。こちらは本物の柴ぞりに丸

太を積んで、五人一組で引つ張り速さを競う。五十六年二月七日、NHK・TV・AM 7:40

14、六月十五日 NHK・TV
PM 7:00

ニュースの時間に騎手の「ちやぐちやぐ馬」を放映する。これは既に本誌で紹介したことがあるが、こゝしは七十八頭の農耕馬が参加し前年より五頭多かったという。馬はいなくなつたとはいえまだこんなに集る。一五〇万円かかったという衣装や飾りをつけて、集合場所の村はずれから盛岡の八幡宮まで行列する。馬には子供が乗り、馬主か馬方が口を取り、笛や太鼓に送られていつ見てもたのしく綺麗なちやぐちやぐ馬だ。

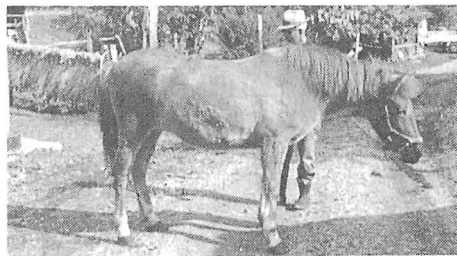


盛岡のちやぐちやぐ馬

15、七月二日 NHK・TV
AM 7:19

これもニュースワイドに取り上げられた木曾馬の話。北海道のどさんこと同じ日本の在来馬、粗食に耐え堅牢をほこつ

た木曾馬も機械におされて減りに減り、今は全国から集めても百頭前後しかいない。そこで会田村などの肝入りで専用の牧場を造り夏期放牧で自然繁殖をする事になった。放し飼いの方が仔が生れる率が多いという。温州山の山開きまでには観光道路わきに八百万円の予算で木曾馬資料館を造り、観光資源に供するという。放牧場の牧柵の向こうに素朴な木曾馬が見える。



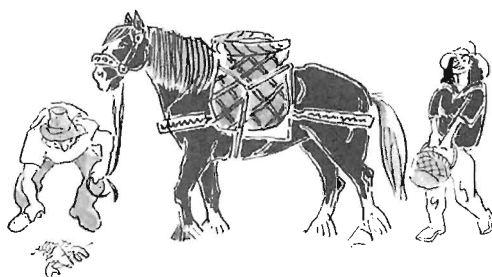
木 曾 馬

16、七月十日 STV・TV

PM1・00

人間の三大欲のひとつに食事があり、最近は特に料理番組が多い。これもSTVの料理番組「ごちそうさま」にベルギーの見事な芦毛の重種が出てくる。マリゲルトの海岸に働く「海老とり」の馬。

両背に籠を下げ、遠浅の海岸を歩く。海岸に打ち上げられ、また泳ぎついた海老籠に八分目もとれるという。ベルギーは昔からブラバンソン・アルデンネなどの重ばん馬の産地として有名。ブルシェ街のレストラン、ブランドル料理店は「愛の湖畔に、立ち並ぶ中世風のベニスのような街の一角にある。海老料理はこの店自慢の「北海ブラマンの美味」だ。



17、七月二十四日 毎日新聞
三度目の富士登山、総理府も訪問どきんこ出発式。

土産仔の富士山出発式が二十三日朝、道庁赤レンガ前で行われ「どきんこが北海道開拓に貢献した不屈の忍耐力を広く全国の人たちに紹介して欲しい」との激

励に送られ、元氣一杯で旅立った。富士登山はこととして三年目、新たに加わった札幌手稲富丘の東吉次郎さん八十三才と二頭のとねり仔を含め、九頭が山頂を目ざすという。一行は二十四日から二十六日まで総理府、農水省、根岸競馬記念館を歴訪し、富士登頂は二十五日、五合目まではトラック輸送で行き、それからは徒歩で山頂を極めるという。

AM5・40

19、十月九日 NHK・TV
AM7・30
ニュースの時間、そば降る雨の北見市路上、乗馬で散歩をたのしむ珍しい老人を呼びとめて、市川アナウンサーが話かける。
雨降りをいともせず乗馬散策を楽しむ。老人は七十二才の中松長作さん。馬もまた十九才というから人間でいえばもう七十四、五才の老馬。中松さんとちょうど同じ位だ。

これは宮崎県の山村、綾町に勃興した馬産の話である。往時の九州はその八〇%が名馬産地であった。セリや品評会も盛んに行われ、この綾町にも三百頭の農耕馬がいた。減反や転作に苦しむ農村に三年計画で米・仏から農耕馬四、五頭を輸入して増産につとめ農業収入を上げようと計画し実行に移した。農耕運搬にも働いてくれて省エネ、有機肥料源ともなる。国産馬より外国産のベルシユロン、ベルジャン、ブルトンの方がよい。皮膚柔かく、乳もよく出る。外国馬は人に慣つき、仔馬は六〇万円で売却できる。放牧場の野生馬は宮崎の観光目玉商品となり、四才で農家の収入減を防止可能だ。綾町には綾北川、本庄川の二本の川が流れ、緑地をうるおしている。この計画に賛同した農家は二十七軒、輸入以来早くも十四頭が生れ、明年早々また五頭が生れる。後継者の若者六人と張り切っており、将来百頭飼育を実現するという。

AM11・00

「畑も馬車もみな機械化したが、馬を飼うのは推肥とりに必要、軽作業には馬が一番じゃ、何といつても可愛いという心のなぐさみは機械はやつてくれん、嫌いじゃ」中松さんは目を細めて愛馬を見やる。畑まで十分ほで行けるといふ。
20、十月十日 NHK・TV
AM11・00

「晩秋の北海道・空中散歩」

晩秋の北海道をヘリコプターで空中散歩する。先ず黒沢アナが根室の空へ、午馬一頭を山に放牧している。冬は雪が積らない。地上では土産仔七〇頭が集まって運動会だ。土産仔の顔は粗野で耳が垂れている。それが土産仔の特徴だ。姫錦号というのが昨年の一等賞をとったという。昔の駄んづけ馬は七頭で組んで七百キロを積載して四十キロをフルに走った。

次は長沢アナの受持ちの帯広、生まれ始めて競馬場を走る土産仔の徒歩競走、七十才のおじいさんも昔とった杵柄で劣

らじと馬を乗り廻す。

機上は西沢アナに変わり空中より牧場見学。二八〇〇頭の牛馬を放牧する日本一の大牧場、山あり、丘あり、平原あり、やはり十勝は日本一の酪農王国、畑の広さも、農村の規模も日本一という。大正村から三杉アナに変わり、味の馬鈴薯メーカーイン畑を見る。ここは大規模な機械農家である。機は新冠に入る。全国サラブレッドの七割を生産している日高、親子馬が牧場を駈け廻る。仔は離乳の季節、仔は別房に入れられる。日高から一転し知床に飛び、番屋の上を、灯台の上をかすめる。羅臼の沖で豊富な鮭とりを見る。美しい知床の五湖、秋の北海道は限りなく美しい。エゾ地は東山魁夷の面のようだ。機は摩周湖の空から弟子屈町の町営牧場一五〇〇頭の牛馬を見下ろしつつ南転して、長沼のハイジ牧場で明三才の土産仔七頭のレースをたのしむ。最後に大沼公園の風光をたのしんで札幌に帰る。

21、十月十四日 NHK・TV

AM七・三〇

「土産仔大集合」

滅びゆく本道開拓の功労馬「土産仔」の保存をはかる人達が組織している「北海道和種馬保存協会」が主催する第四回北海道和種馬共進会。

この日は運動会などいろいろな催しもあって、一年に一度の土産仔のお祭りである。会場は道南函館市に八十四年の歴史を誇る函館競馬場。

現在、北海道和種馬協会に登録されて

いる土産馬は約七百頭で、全道には混血も入れて約二千頭がいるという。この会場に集まったのは各地の代表馬五十五頭。今も尚、土産仔は昔ながらの積載（主として造材山からの木材運搬）、牛過い、用足しの乗馬に働いているという。

審判長は北大の八戸教授、八戸氏は別名「土産仔先生」といわれるほど著名な方、北大の新冠牧場長でもあるが、その牧場には牛、羊、豚のほか四十頭に近い土産馬が飼われている。

黒沢アナウンサーの問いに答えて、土産仔は小さいながらも体型、能力が耐寒的で強く、頸のふとさ、背の骨筋の強靱さ、四肢の堅牢さは粗食に耐え、困苦に打ち勝つ体軀を造り上げていた。往時、東北商人の荷役に使われて来道し、用済みの後はエゾ地にすてられていったという。土産仔は熊や狼から逃れ、木の根、海草を食って行まで生き延びた強い馬である。優秀な遺伝性によっていつまでもその素質を保存していきたいと語る。

一等賞は十九才の婦野号、根室の高坂重樹さんの所有である。同じ根室の大河原さんも土産仔愛馬家で「土産仔は二十五位まで稼ぐ、仔もち（受胎能力）はよく可愛い馬だ」百ヘクタールの放牧場には百三十頭の牛を放牧しており、息子さんがその見廻りに乗り廻しているという。

また、伊藤勇さんは駒ヶ岳山麓で今でも年中造材（丸太）積載運搬をやっている人だが、もうこの仕事を四十八年も続



けているという六十四才の大ベテラン。椎茸のほだ木を運ぶものも土産仔の役目、土産仔の背は動揺が少なく、ローリングがなく安定している。

別海町の大海号は前年一等賞獲得の優秀馬だ。顔はたくましく、眼は輝やき体格もどっしりして、見事な体型である。さてアトラクションに行われた土産仔

レースは一六〇〇米の馬場一周、共進会運営委員長的那須正次部長は、その地道競走（チミチ速歩歩様のひとつ）を眺めながら、土産仔のチミチは横ぶれもなく、上下動もなく積載や乗馬には絶好、北海道開拓の功労馬を永く保存したいと力説する。

22、十月十八日 NHK・TV

AM七・四〇

「徳島の馬増産に土産仔婿さん」徳島の人達にも近頃馬への郷愁がしきり。在来の野間馬はみな一米二〇位の小

柄で農耕に従事してくれた。戦時中背の低い日本兵に合うというので小型馬は徴発され、今は僅か四頭しかない。リヤカー曳に使役される以外は原っぱに繋牧されているか、皆めす馬ばかり。このたび北海道からおすの土産馬二頭を買い入れ絶滅を防ぐという。

23、十二月六日 NHK・TV

PM七・三〇

生への執念を水墨面に

「奔走する馬に夢を託して」

幕別町で農業を励む土井博詞さん（五十六）は、十四前に背椎腫瘍のため下半身不随となった。死と背中あわせに生きる土井さんは、その後、独学で水墨面を学び、ひたすら「馬」を描きつづけてきた。

土井さんの詩集「駈ける」の一節に、一歩みを失って私の行き得ない未知の大地を私の馬は走り廻る一とある。

大地を駆ける馬に夢を託し、生への執念を燃やしつづける土井博詞さんは、顔半分がひげで被われている。足が不自由だから坐机の前に坐って太い筆で馬を描きつづける。もう何千枚、何万枚描いたかしない。

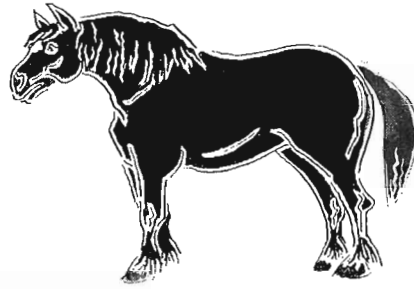
未だに痛みはとれないが面に熱中していれば痛みは忘れる。土井さんはかつて手塩にかけた十勝馬を手一杯走りさせてみたい。それが私を面に向ける、面になる。

勇壮な音楽を火景に二十八枚のペニヤ板に描かれた群馬が画面に躍動する。奥さんは土井さんに代って畑仕事を全

部引き受けている。トラクターの運転などすべて機械化している。家事と外仕事。土井さんが今あるのは奥さんの励ましと労力があつたからだ。

24、札幌市広報誌に農耕馬

札幌市の広報誌「さつぽろ」に珍しい農耕馬の紹介がふたつあつた。一つは農耕馬の改良原種ベル、一つは馬鉄である。



☆篠路ベル

競走馬の王者がサラブレッドなら、鞍馬の王者はベルシユロンといわれる。ベルシユロンの一級馬産地として旧篠路村（現北区篠路町）が全道に異彩を放つてきた時代があつた。生産馬は「石狩ベル」とも「篠路ベル」ともいわれ、十勝馬と共に忘れられない。篠路経済のいしずえとなつたのはベルなんですね。いわば開拓功勞者ですよ、あの馬たちは……」
村の町内会長をつとめる宮西頼母さん

が話すように、ベル生産の村の財敷の基盤となつていた。

村史をみると明治期には石狩川の大氾濫、ときには冷害と農業経営はたびたび大打撃を受ける。こうしたことから農作物一本の農業から、安定した収入源を確保するために「水難に強い馬産を始めた」と篠路の郷土史に明るい柳沢正幸さんは分析する。従来は真駒内種畜場から導入していたベルを、直接フランスから輸入したのが大正十五年。第一回輸入馬はアニー号、それから四頭を入れ生産した篠路ベルは名声を博し高値で売られていった。今もなお、五頭の名馬を合祀する馬魂碑が篠路神社に建っている。

☆馬鉄、駅前通りを行く

札幌に始めて登場した軌道は馬車鉄道だった。馬鉄は明治四十二年、石切山の石材を運ぶために、敷設されたが、四十五年から線路を延長して旅客の輸送を始めた。一番多いときは延長二〇キロとなり、三〇台の馬鉄が運行していたという。大正七年に道博が開かれ、電車に変わった。その間市民に愛され、札幌市の風物詩の役割を果たした。



ばんえい競走現役馬からの種馬購買

日本馬事協会は、種馬馬の購買を十一月十七日帯広競馬場で実施した。
当初、ばんえい競走馬の中で種馬馬の候補馬が四六頭あつたので、書類審査と実馬検査で十五頭にしぼり、さらに精液検査を行い十一月十七日入念な検査を行った。つた後購売馬六頭を決定した。

昭和56年度農用種馬購買名簿（ばんえい馬）

馬名	品種	毛色	生年月日	産地	血統			体高 cm	体重 kg	勝数 出走回数 取得賞金 (千円)	先配 置 先 (購買価格 万円)
					父母	祖	父母				
イワナミ (波榮)	半血(鞍)	鹿	昭48・5・5	訓路市	ブル 銅 重系 榮	柑	ブル 鉄 オ リ ー 山 久	166	944	24 85 17,721	ホクレン北見支所 620
キタノテンリュウ (トカチトップ)	ブル系	鹿	49・4・8	幕別町	ベル 鉄 重半 恵	鯉	ブル ル ウ レ マ 親	170	980	17 68 18,937	ホクレン苫小牧支所 650
ゴールドワーク (藤盤)	ペ ル	青	49・3・19	*	ベル ウ ル バ ン ベ ル 第 二	初 姫	イ ホ ワ ー ル ピ ット エ タ ロ ン 初 姫	168	942	11 65 5,817	十勝農協連 400
ジャスマン (宝雄)	半血(鞍)	栗	47・4・20	豊頃町	ブル 鉄 重半 第一梅進	鯉	ブル ル ベ ル 中 半	165	918	19 145 25,669	神尾県伊良部村農協 380
フラノシンザン (梅)	半血(鞍)	栗	48・5・15	*	ブル 鉄 重系 桜	鯉	ブル ル ベ ル 重 系 八 重 半	168	966	14 116 11,185	釧路農協連 350
ブラックパワー (東風)	半血(鞍)	青	48・4・6	北見市	ベル ア プレ ス 重半 東		ロ ー シ ェ ル サ ン シ ン プ ル ア ン グ ラ ム ツ ヒ メ	170	1007	15 131 18,098	十勝農協連 600

ばんえい競馬の 今後を求めて

旭川市競馬事務所

主 査 鷲 見 隆

大雪、十勝の峰々に今だ新雪が舞い散る五月、だが旭川競馬場の周囲はすっかり緑に覆われ桜、コブシの花が眼に肌を貴やかに冴えわたる五月晴の十七日。

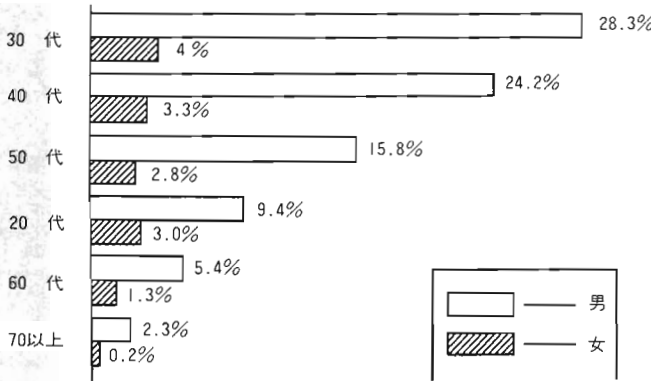
昭和五十六年、市営旭川競馬第一回二日目の日曜日、開門と同時に今後のばんえいのあるべき道を求め、先着一〇〇〇名のファンを対象にアンケートを実施した。(この日の入場者は、八八四〇人)

今回のアンケートの実施する目的は、激動する今日の社会環境のなかで、ファンが如何に現在のばんえい競馬をとらえ、又今後に対する期待を、どこに求めているかをシツカリ見定め、この声をより反映させるとともに、近年地方競馬の低迷は、予想を統するものがあるが、反面、中央競馬の場外発売の成績は、顕著なものがあり、これが地方競馬において、特に現在四市で進めている相互場外を含め、如何なる判断が必要か、またこのことが、本場にファンの拡大、発売の向上に繋がるかを、模索する、一方ファンは設置に關しどの様な内容の物を望み求めているかを、調査のメインとした。

実施に当っては、総員十五名の職員、従事員がマン・ツーマン方式で、ファンにはあまり焦燥感を与えない範囲で、協力に対しさわやかに丹を贈呈。

大方のファンはこの調査に対し好意的で、しかも今こそばんえい競馬が、大衆の娯楽としてファンと共に進む方向を見出し、限らない発展と願っているのかのように、頑張れとの声援がひしひしと感

表 1

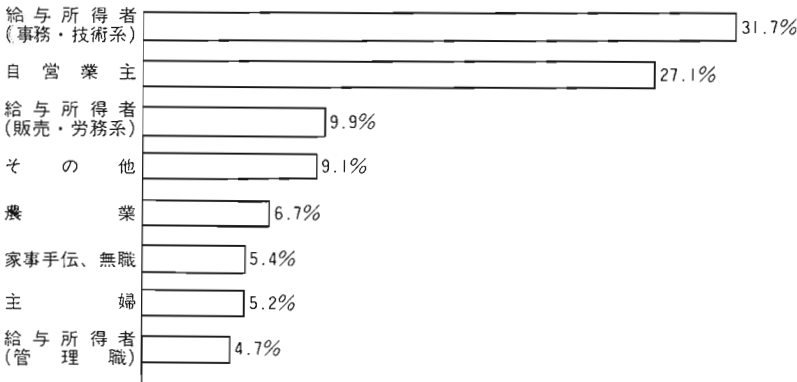


ぜられる。今回の調査であった。がしかし回答のなかには、厳しい時代に入っていることを、うかがわせるようなことも多く、今後のばんえい発展の道を求めるに当って、容易でないことを痛感した。

1、入場者の男女別及び年齢(表1参照)

前回の調査に比べ二〇代が伸び、三、五〇代は変わらず、四〇代が減少している。

表 2



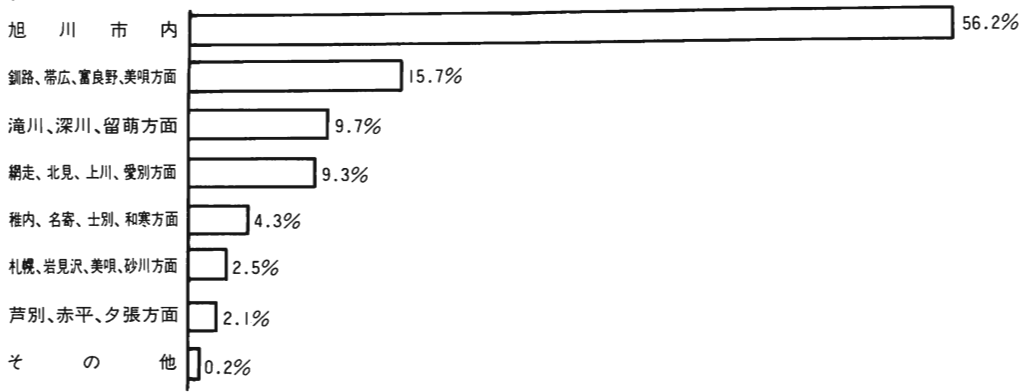
2、入場者の職業(表2参照)

農業者の入場者が、五〇%と大幅なダウンをしている。

3、入場者の方面別来場割合(表3参照)

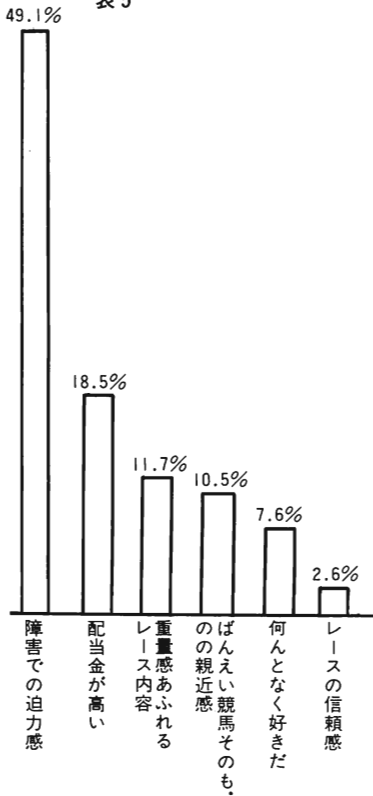
前回の調査と比べ、旭川市内、帯広方面が、大幅に伸びているが、札幌方面が

表 3



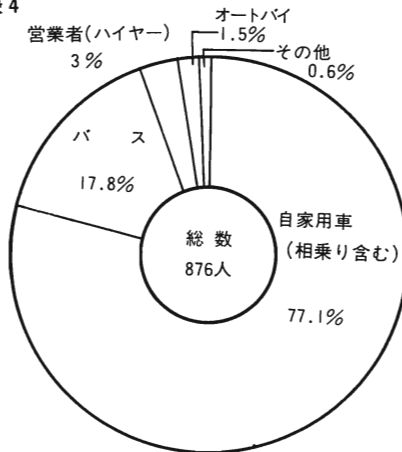
減少の傾向にある。

表 5



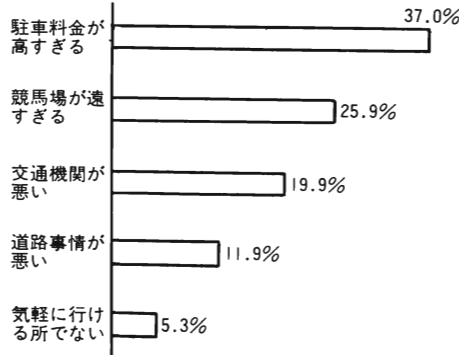
5、ばんえい競馬の魅力(表5参照)ばんえい競馬の親近感が、前回の調査より四倍もの伸びをみているのが、力強く感じる。

表 4



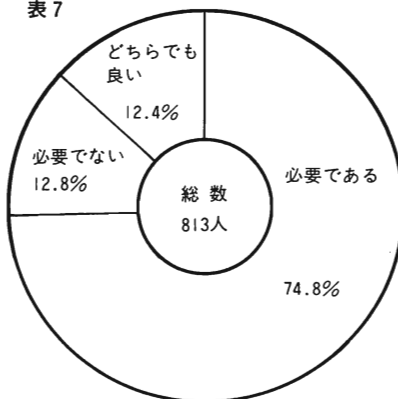
4、入場者の利用交通機関(表4参照)自家用車の増加が続いている。営業車は減少している。

表 6



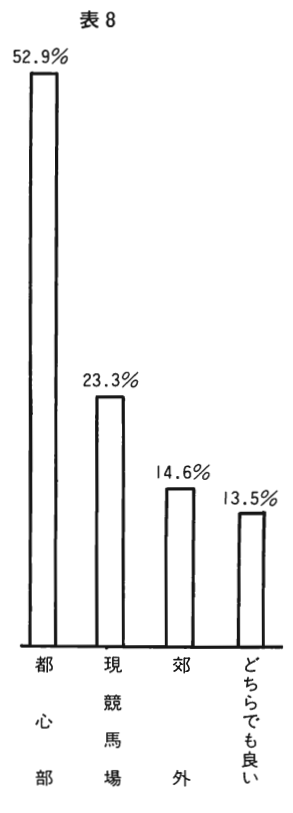
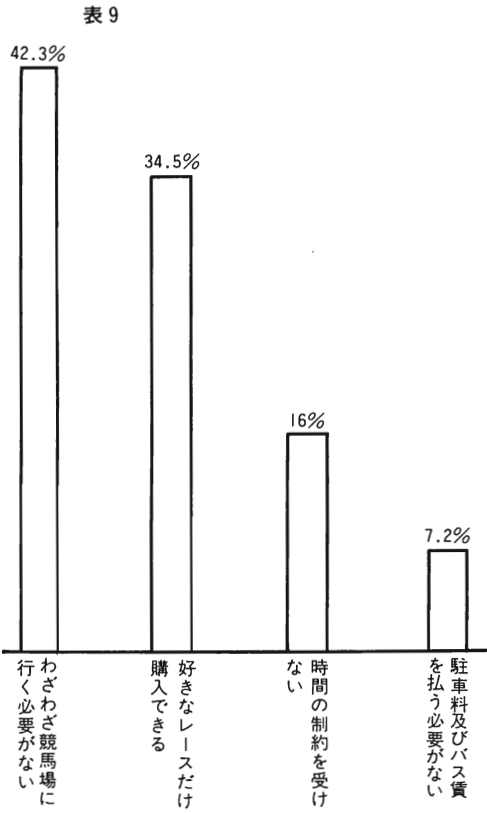
6、入場者の来場時の不満(表6参照)この調査は、旭川特有のもので、駐車料金が一番にランクされることは、予想通りの結果。また道路関係に不満が多いのも当然のことかもしれない。

表 7



7、場外発売所の設置(表7参照)(一)場外発売所の必要性前回に比べ必要が、十三%の増、どちらでも良いが、三%少なくなっており設置の要望が強くなってきているのが判る。またばんえい四市の相互場外についても同様の数値であった。

(二)場外発売所の設置場所(表8参照)この調査は今回初めてのものであるが、都心部が意外と少なかった様に思われる。現競馬場と効外の関係とどう判断するか、吟味の要がありそうだ。(三)場外発売所の利用する理由(表9参照)二、三番にランクされている五〇・五%が、設置した段階で、発売成績にどのような影響をもたらすか、不安な要素であ



場外発売所の設置に関する調査は、以上の結果であるが、必要性については、予想通りのものであるが、利用する理由については、今後影響度を分析する必要があるとそうだ。

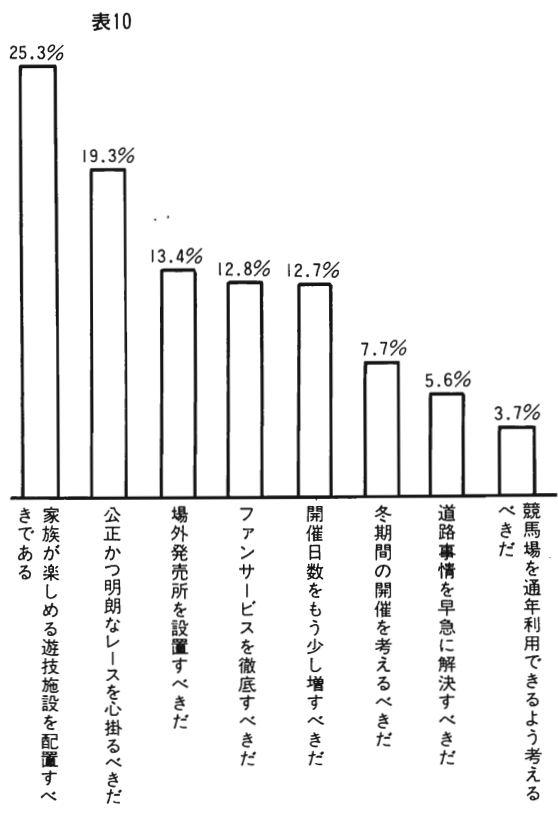
8、今後のばんえい競馬に対する希望
(表10参照)

これと比べて特徴的なものは無いが、我々が日ごろ考えていることに対し万遍無く希望されており、ファン要望が多様化される現在の取り組みは、容易なことではない。

以上が今回のアンケートの集約結果であるが、今後希望するなかで、家族が楽しめる遊技施設が、トップにランクさ

れており、これは、馬券のみの競馬場ではなく家族団欒の場であることを望む声であり、現状にあまんずることはもはや許されないことであるように思われる。

また宣伝関係では、「開催日程を知る方法としては」、新聞で知ったが、トップ、



「多く行く競馬では、ばんえいを断然トップであった。

これは若干好意的な回答も含まれているような気がする。

最後に回答率は、マン・ツーマン方式で実施したため九四%も非常に高かった。



ばんえい便り



1 競馬監督

農林水産省畜産局競馬監督課から、ばんえい競走の監督に、左記の日程でこ来場になり、熱心な監督と指導を戴いた。

9月20、21日 旭川 新田監督官

10月4、5日 北見 沖田監督官

10月24、25日 帯広 西中地方班長

また、北海道競馬事務所からは

6月27日 北見 河村次長 若狭主事

7月26日 岩見沢 渡部、平尾両技師

10月17日 帯広 高橋次長

が、ばんえい競走の指導と研究にご来場下さった。

2 千客万来

本年も各競馬場に数多くのお客様がご来場になり、終日ばんえい競走をご熱心に視察されました。

4月27日 地全協大山副会長、笠木調査役(騎手表彰)

4月9日 全国市議会事務局一行

山田氏他3名

5月17日 ニュージランド、タウラン

ガ競馬場ドクターシモンズ

会長他4名

5月30日 長崎市議会議員一行8名

6月20日 作家山口瞳氏「旅」編集員

6月22日 瑞野老人ホーム一行35名

6月27日 馬事文化財団加藤恵美氏

6月28日 群馬県競馬組合

小池業務課長他4名

7月6日 埼玉県浦和競馬組合

和田総務係長他3名

7月19日 日本中央競馬会

近藤常務理事、田中東京競

馬場長、佐藤調査役

8月24日 岩見沢老人クラブ二〇〇名

8月28日 神奈川県公営事業所

野崎部長他3名

東京都特別区競馬組合議会議長杉本氏25名

青森県全木町議會議長

秋本氏11名

岡山県議員一行8名

9月5日 千葉県競馬組合一行8名

9月7日 装蹄師会北副会長他2名

9月12日 日本馬事協会小林、那須氏

9月18日 保安協会保坂副理事他15名

9月20日 全日調騎会一行25名

9月20日 栃木県公営競技課一行14名

10月4日 11PM取材、藤本義一、水

野暗夫、柳やさん光

10月11日 保安協会宮下監事

10月17日 保安協会佐野課長

10月19日 十勝種畜牧場吉川場長

10月19日 名古屋競馬株式会社

10月23日 鈴木社長他3名

11月15日 全国本競馬運営実務研究会

一行

全公営山田局長

十勝種畜牧場長外3名

3 タカラコマの産駒重賞(四着独占

本年度最初の三才重賞競走のつじ賞

(五月十七日)でタカラコマ号の産物が

1、2、3、4着を独占する記録を樹立

したが競走経歴種雄馬の産駒強しの強烈

な印象を残した競走であった。

一着 タカシヨウリ

二着 タカラソウシン

三着 タカラボシ

四着 キタノバイコー

4 北海タイムスの予想

五月二十三日から旭川競馬の予想を北

海タイムスが発表、スポーツ紙以外の日

刊紙で予想を取上げたのは道内では最初

である。スタートの第一日目は十戦六勝

の好成績であった。

5 五月の大雪八十一周年ぶり記録更新

第二回旭川二日目の五月三十日、早期

から競馬場にチラチラ雪が降り出し、丘

陵地帯は真白に雪化粧、山間部では二〇

〇センチの積雪となった。この降雪

は、旭川地方気象台の遅雪記録を八十一

年振りにも更新する新記録となった。幸に

も競馬には支障なかったが、農業関係者

は「今年も冷害ではないか」と不安の色

を濃くした。

6 岩見沢の夏祭でPR

八月一日から始まった岩見沢夏祭で、

夕方から岩見沢音頭のパレードが開始さ

れたが、市長さん先頭に、ばんえい競

馬の日程入のウチワを片手に競馬のPR、

市長さんの手振り足どりはプロ級との評

判が高かった。

7 百年に一度の大雨

第二回岩見沢競馬前半三日を終えた八

月三日夜から、三日間にわたり延べ四一

〇ミリという同市始まって以来の集中豪

雨に見舞われ、競馬場の新厩舎団地は床

上浸水にあい、一部の厩舎は装あん所に



集中豪雨に見舞われた新厩舎

避難する大騒ぎとなったが八月からの競馬は無事開催できた。なお、市内の浸水家屋は約二三〇〇戸という大被害を受けた。

8 国際障害者年記念レース

八月十四日、岩見沢競馬場で国際障害者年記念地全協会会長賞競走を実施したが、岩見沢市で市内居住の身障者を招待し、競馬を一日楽しく見ていただいた。



挨拶する岩見沢市長

9 岩見沢台風十五号のWパンチ

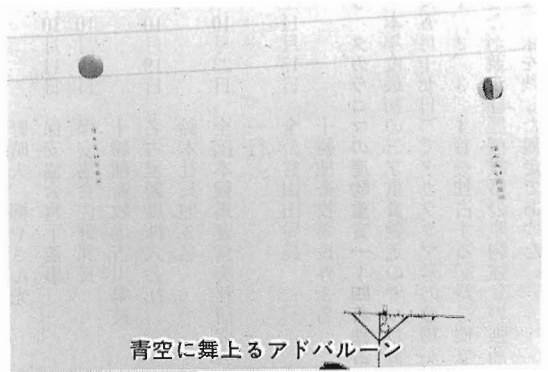
八月三日からの集中豪雨で大被害を受けた岩見沢競馬場に、北海道には上陸することのない台風十五号が八月十二日に直撃、復旧なった厩舎やフェンスにまたもや大被害み受けるWパンチで、K〇寸前に追込まれた。

10 アドバルーンでのPR

岩見沢競馬場の青空にポツカリ浮んだばんえい岩見沢の二つのアドバルーン初の試みとしてはPR効果上々、しかし、悪戯鳥の嘴攻撃にあり、パンクする一幕もあった。

11 本会業務課長の海外研修

毎年行なわれている海外研修は、本年度もオーストラリア、ニュージーランドを中心に計画されたが、本会から、大原業務課長が参加した。帰途フィリピンのマニラ競馬場も見学して、九月二十八日出発、十月十三日無事帰国した。同行予定の帯広市菅原農務部長は冷寒と台風の影響対策で急遽中止せざるを得なくなった



青空に舞上るアドバルーン

ことはお気毒でした。

12 売店関係者の綿アメサービス

九月開催の旭川競馬場で場内売店関係者のファンサービスとしてチビッコ広場で一日六〇〇名の子供達に四日間綿アメの無料サービスを実施、あまりの人気で機械がパンクするアクシデントもあったが、チビッコに大好評を受けた。

13 北見にペビーハウス完成

北見競馬場は、日本一のファミリー競馬場として有名ですが、日曜祝日はお母さんとチビッコ、そして若いカップルで一杯となります。昨年「女性専用トイレ」二棟を新設、女性ファンから大好評を得ましたが、本年は遊園地内に、「ペビーハウス」を新設、乳児のオシメの取り替



チビッコに綿アメをプレゼント

喜ばれています。

14 ニュージランドからのお客さん

ニュージーランドのタウランが市にあるベイオブレンティレイレーシングクラブの会長のラルフWHシモンズさん他四名が五月十七日旭川競馬場を訪れた。前会長のロバート、シルソンさんは昭和五十一年と五十五年に二度来場のばんえい通でしたが、シモンズさんもパドックから発走地点、そして馬といっしょにゴールまで走る熱心さ、馬券もチョコッピリ買つての勉強振り、きつとばんえい通になって帰られたことでしょう。

15 史上初のパーフエクト競馬二面

一期間で制裁処分のない競馬を開催す



ニュージーランド、タウランガ競馬場から
ばんえい競走を視察



完成したベビーハウス

ることは至難のことであり、ばんえい史上一度も達成できなかったが本年度第三回と第五回の北見競馬で二度も達成する大記録を樹立することができた。今後は全開催のハーフェクト競馬を目標に努力し、ファンに迷惑のかわらない公正競馬を開催したいものである。

16 若手騎手の活躍

中半戦までリーディングトップを走っていた久田騎手も後半半藤騎手に追込まれて八九勝の二位に甘んじたが第三回北見競馬五日目に一三Rを三連勝、勝率一〇〇%と良く頑張った。また三年生騎手の岩本騎手は第六日目、五戦四勝のかため所で、年間六四勝をあげ、二年生騎手の西弘美騎手も昨年の三八勝を上廻る四二勝の活躍は立派であった。

17 二日続けての同着

同着はそう珍らしいことではないが、第三回北見第二日第九競走の道新杯ながつき賞で、イワナミ号とドウホクチドリ号が一着同着となり、副賞のカップルが一個しかないのが担当委員は大慌て、また、翌日の第四競走でも二着馬が同着となり、二日続けての同着はばんえいとしては珍しいケースであった。

18 ガードマンの善行

十月八日北見競馬場の警備を担当している北海道総合警備保障のガードマン加賀隊長以下二十二名が、養護施設「きたみ学園」の子供達十五名を競馬場に招待、ジンギスカン鍋や果物を食べたあと風船割り等のゲームで楽しいひとときを過ぎ



プレゼントを贈るガードマン

た。資金は買物の釣銭を瓶に入れておうちに一万五千円が集まり、全員で使道を相談した結果がこの招待で「招くからには楽しい催しに」とさらに一人三千円を出し合ったもの。

19 新人川原騎手三連勝

本年から騎乗した川原騎手は、新人らしくからぬ離れ技をやった。第五回帯広競馬第二日(十一月九日)に、第一、第二、第四競馬と三連勝。第五競走は二着、第七競走は四着と大活躍、新人騎手三連勝の対レコードを作った。過去の記録は昭和五十四年十月十九日、岩本騎手が新人三連勝の記録を持っている。

20 一億突破のレコード

最終回の帯広農林水産大臣賞典競走が本年売上面での唯一のレコードを樹立した。一レース一億円を突破できなかった



馬鈴薯の皮むきに汗だく

のは帯広だけであったが、本年これを達成し二億一四六四万円の好成绩となり、九千名の入場者はばんえい重賞一トンの最重レースの熱戦に興奮し、入線直後は大歓声とともに大角力で見える様な座ぶとんが空中に乱れ飛ぶさまは、ばんえい競走ならではの光景であった。

21 一トンの馬鈴薯のサービス

十一月一日のファンサービスデーに帯広競馬場では、大正メークイン一トンを大きな釜三ヶで炊出し、バターを添えてのサービスは大好評、朝から揃いのハッピー姿の大正農協のお嬢さんが寒風の中で同日先着七千名に、馬のイラスト入のハンカチもサービスした。

22 大荒れの帯広最終日

平地に比較するとばんえいは中穴が多く、五〇〇円以下の本命や万馬券は非常に少ないのが特色となっているが帯広競馬の最終日十一月十六日には第一Rから四

七六〇円、第三R一七四二〇円、第四R五二一〇円、第一〇Rの最終Rでも一〇六七〇円となり、一日に万馬券が二本も出る大荒れとなった。

23 毛色毛指定の白馬賞

ばんえい初の試みとしてオープン、準オープン級の芦毛馬の中から特に白い馬を一〇頭指定し、真白く雪化粧した北見競馬場で最終日の十一月三〇日「白馬賞」を行なった。九号馬タイハイボウ号が一番人気で、ゴール直前まで良く頑張ったが逃げ切れず、人気薄の七号馬ヒロホマレ号の金山騎手が見事な追込みを見せ、微差で優勝した。

24 畠中調教師リレーング一位で勇退

本会長表彰規程に基づく調教師リレーング第一位となった畠中芳勝は、本年十一月一杯で後進に道をゆずり花道を飾った。



白馬賞レース



勇退する畠中・木村調教師

て勇退した。また、木村与惣治師も勇退したが、永年にわたるばんえい発展に対するご尽力に感謝いたします。祈ご多幸。

25 ウルトランマンショーに大喜び

帯広競馬場で五月三日に遊園地の一角でウルトラマンショーを三ステージ実演、チビッコはウルトラマンシールを胸にはってニコニコ顔、向いで実施したポニーと遊ぼう広場も人気上々で、当日の子供の入場者は七一〇名であった。

26 第十一回目を迎えた「11PM杯」

夜の人気金組全ネットの「11PM」に、「ばんえい」が初登場したのが昭和四十六年で、数えて本年度は第十一回目を迎えました。初回から一回も休むことなくしに司会を続けている作家の藤本義一氏をはじめ、アシスタントの松居一代さん、ゲスト出演は映画評論家の水野晴夫氏、落語家のさん光氏、それにミスター海介氏、歌手の北原ミレイさん、馬社の前田



チビッコに握手攻に合うウルトラマン

量平氏等が出演し、好天にめぐまれた北見競馬場で撮影、十月八日に全国に放送された。



11PMの司会者藤本義一氏

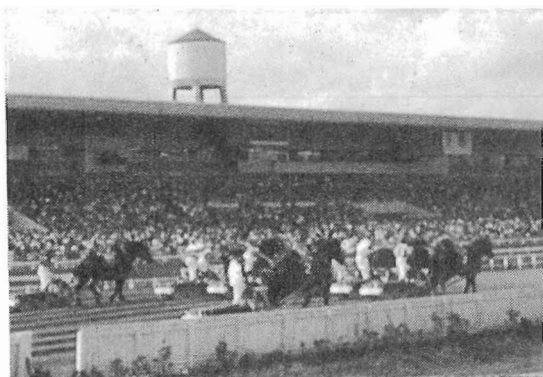
27 道管に追いつけなかった岩見沢
道管競馬と競合している旭川と帯広は、以前から一日売得金は道管を上廻り、岩見沢だけが下廻っています。今年の岩見沢は過去最高の九六%まで迫ることができました。旭川の道管は全国一の一四・四%の伸率のためばんえいは三二%減、また帯広のばんえいは全国下位から二番目の七六・六%の低い伸率のため三〇%減となった。道管の一日平均売得金を一〇〇%とすれば次の表のとおりである。

	旭川	帯広	岩見沢
51年	131%	127%	60%
52年	181	122	67
53年	152	136	77
54年	180	136	87
55年	199	166	91
56年	167	136	96

ばんえい競走広報活動実施状況

	旭川	帯広	北見	岩見沢	市営競馬協議会
ファン感謝デー	〃 オペラグラス 4,000個 〃 ドライバーセット 3,200個	〃 ボールペン 8,000本 牛乳無料サービス 7,000個 ウルトラマンショー 3ステージ ウルトラマンシール 2,000枚 〃 馬鈴薯焚出サービス 8,000人分 メークイン1tバタ ー付 ばんえいイラスト入 ハンカチ 8,000枚	〃 3色蛍光ペン 6,000本 牛乳無料サービス 4,000個 発売予想投票 20位迄賞品 〃 30 使捨カイロ 10,000個	〃 タバコ(5本入)、マ ッチ 名刺型カレンダー 絵葉書(3枚入) ウチワ、煎餅 「ガンバ君」ワッペン シール	
ポニー乗馬サービス	日、祝日、無料 3頭	日、祝日、無料 5頭		日、祝日無料 2頭 ボラロイド写真サービス	
遊園施設の拡張			電動式花馬車 新設 ベビーハウス 〃 婦人専用トイレ 〃		
キャラバン隊P.R	宣伝カー、市内及び近郊 町村巡回チラシ、ポスタ ー、マッチ、花の種等	同 左	同 左	同 左	
道内P.R	新聞、テレビ、ラジオ、 ポスター、看板、広告塔、 ステッカー、たれ幕、マ ッチ、日程表	同 左	同 左	同 左	毎週金曜日「ばんえいハイ ライト」のTV放映「ばん えいカレンダー」の配布2 万部会報及び日程表の配布
道外P.R	鹿児島市、山形屋デパー ト〃 23ばんえいコーナ ー(VTR、パンフレッ ト、パネル、蹄鉄300本、 アンケート)	羽田空港、ばんえいポス ター掲示	テレビ番組「11PM」にお けるばんえい競走の全国 放映		「ばんえいカレンダー」の 送付 会報の送付
海外P.R	ハワイばんえいキャラバ ン6月(VTR、記念品)				フランス馬産地に「ばん えいカレンダー」の送付
花火大会				夏祭の一環として毎年、 競馬場で開催 1,200発ウ ルトラマンショー	
ファン人気投票レース				ポブラ賞 200名(Tシャツ、エプロ ンセット)	
その他	市役所発行、市民広報誌 に折込チラシによるP.R	各市とも、報道関係者と 懇談会を開催し、新聞記 事として取材依頼		元旦に年賀ハガキを初荷 として、ばんえい競走馬 で配達し、競馬のP.Rを した	

ばんえい競馬場紹介



右回りコース1周：1,300m／幅員：25m
ばんえいコース：200m／幅員：25m

- 北海道旭川市神居町上雨粉500
／TEL 0166(61)7822
- 交通：旭川駅からバス30分／タクシー20分



右回りコース1周：1,300m／幅員：20m
ばんえいコース：200m／幅員：22m

- 北海道北見市若松306／TEL 0157(24)7911
- 交通：北見駅からバス25分／タクシー20分

旭川競馬場

旭川市神居町上雨粉

北見競馬場

北見市若松306番地

岩見沢競馬場

岩見沢市日の出町440

帯広競馬場

帯広市西13条南9丁目



右回りコース1周：1,200m／幅員：20m
ばんえいコース：200m／幅員：24m

- 北海道岩見沢市日の出町444／TEL 01262(3)9931
- 交通：岩見沢駅からバス14分／タクシー12分



右回りコース1周：1,570m／幅員：20m
ばんえいコース：200m／幅員：21m

- 北海道帯広市西13条南9丁目1／TEL 0155(24)0825
- 交通：帯広駅からバス10分／タクシー8分

子供の増加した ファミリーばんえい

入場人員は北見競馬の一回増もあって
辛じて五〇万人は確保できたものの、一
日平均前年対比では八九・五%の激減と
なった。

その中であって、十五才以下の子供の
入場者だけが一〇三・六九%と若干では

あるが増加した。

子供と女性の入場者が多いことは、ば
んえいの特色とも言えますが、その比率
は年々増加の傾向にあり、本年は二〇・
七%となった。

昨年の統計で、天候と開催季節の関係

もあるが、子供と女性の入場比率の高い
競馬場が、売得金の伸び率が高いと言う
数字がでたが、本年も同様な傾向が見ら
れています。

表(2)によれば、入場比率前年対比ブラ
ス三%以上の旭川と岩見沢は九〇%台を
確保できたが、反対にマイナス二%以上
の北見と帯広は大巾な低下となった。

また、表(3)によれば、一期平均入場者
の増加している順位と、売得金の前年対
比の伸び率の高い方からの順位が一致し
ているのも、何か深い関係があるのでは

ないかと考えられる。

二年連続この傾向が見られるかぎり、
今後のばんえい競走は、家族揃って気軽
に行ける楽しい競馬場として、遊園施設
の拡張、食堂のレストラン化、子供対象
のアトラクションとノベルティ、子供女
性専用席の確保、女性競馬教室の開設等々、子
供と女性の入場者増加につながる諸企画
に努めるべきではなかるうか。

(K・S生)

(1)競馬場別入場人員調

競馬場	総入場者 (含15才以下)	入場者 (有料、無料)	男性	女性	子供 (15才以下)
旭川	154,665	142,147	119,382	22,765	12,518
帯広	133,773	126,453	109,506	16,947	7,320
北見	126,102	118,781	99,357	19,424	7,321
岩見沢	128,889	120,196	102,677	17,519	8,693
合計	543,429	507,577	430,922	76,655	35,852
前年対比	95.33%	94.79%	94.33%	97.46%	103.69%
男、女比率		100%	84.90%	15.10%	
総数比率	100%		79.30%	14.11%	6.59%

(2)競馬場別入場者比率

競馬場	男性	女性、子供	女性、子供 前年比増減	売得金1日 平均前年比
旭川	77.19%	22.81%	+3.12%	96.2%
帯広	81.86%	18.14%	-2.29%	76.6%
北見	78.79%	21.21%	-2.15%	88.2%
岩見沢	79.66%	20.34%	+3.31%	91.7%
回場平均	79.30%	20.70%	+0.84%	87.1%

(3)競馬場別1期平均入場者調(女性、子供)

競馬場	55年	56年	前年比増減	売得金1日平均 前年比順位
旭川	7,450	8,821	+1,371	1
帯広	6,927	4,853	-2,074	4
北見	6,939	5,349	-1,590	3
岩見沢	5,595	6,553	+958	2

勇退にあたって



調教師

木村 与惣治

勝負に明け、勝負に暮れた、三十四年間、長い間皆様は大変お世話になりました。物心ついた時より馬と生活し、勉強よりも馬が好きで、尋常高等小学校の卒業記念写真を写す時も、馬と玉石運びに行っていて、記念写真に写っていないかったのを記憶しております。

昭和十二年家内と結婚し、二男三女をもうけ、馬で運搬業を営んで主に農業協

同組合の仕事をしておりました。近隣町

村で祭典行事で行われる草ばんば競走に

「我が馬こそは村一番」と出場させ優勝

旗をなびかせて帰宅するときは、一段と

気持の良いものでした。

終戦後、第一回旭川競馬でばんえいが

昭和二十二年開催されたと記憶しており

ます。その頃の競馬場は、戦争に負け物

資も乏しく、騎手も私服の上に背番号を



馬体を鍛錬する調教師

付け、騎乗法も自由でした。きゅう舎にしても、ベニヤ板一枚がすこ隣に付ける状態で、粗末なものでした。現在は、関係各位の努力のおかげで施設が完備され、四月初めから十一月末までの長期間滞在も人馬ともに快適に暮らしております。

昭和二十四年頃に馬からトラックにかけて、一時馬を手放したことがあります。さみしい気持を家内が察して、すすめられて又馬を買いばんえいに出場しました。

昭和三十七年に、トラック輸送をやめ、ハイヤー会社を設立、車庫のうらに馬小屋を作って、思い出多いキタバヤマ、チェス、ネムロコマ号等を、飼育調教している様子を、陸運局の係官が視察に来て驚いていました。なにしろ車庫の中を

通って馬が出入し、新旧の乗物が一緒に

おいてあるのですから。昭和四十年頃次男の卓司が卒業と同時にこの道を入って来ました。

昭和四十二年からは、上の四人がかたづいて、会社は子供達に任せて家内と卓司と三人で、四市を廻ってお世話になりました。親子で同レースに出場したことも何度かありました。家内も私と一緒に歩いて歩くようになって十五年、良く私を理解し、ついてきてくれたと思いま

す。北海道の難所である狩勝や石北峠の輸送中には、何度も肝を冷すことがありました。

きゅう舎の仲間達とは、親、兄弟より



花束を贈呈され一瞬涙

も深く付き合ひ、一つの物も分け合って食べるほどでした。

私のきゅう舎から一本立ちし調教師で第一線で活躍している洲上昭一君、長谷功君、今年から騎手としてデビューした鈴木正貞君達には、心から喜んでおります。

昨年、生まれ育ててくれた深川市に寄付しましたところ、内閣総理大臣より、褒章状を頂戴しました。このような名譽なものを頂けたのも馬のおかげと感謝しております。

市営競馬協議会、四市職員、きゅう舎関係、ガードマンの皆々様本当にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

最後に、ばんえい競馬の発展を心よりお祈り申し上げます。

北見の思ひ出

「鹿をみた」といふ。「鹿が道を横切つて行つた」といふ。

朝のミーティングは、たった今、この北見競馬場へ来る途中で目撃した「鹿」のことで、もちきりになつた。

五十四年八月、トーターリーゼタシステムの運用開始の準備のために、競馬場に集まつていた。毎朝のミーティングであるが、今朝は「鹿」が主題になつて終つた。

走つているタクシーの前方を、鹿が二頭、左の競馬場の方の林の中に、道路を横切つて行つた、というのである。

毎朝市内のホテルから、タクシーに分乗して競馬場に集まつて来る。冬になると蛙がのぼつて来るという川を渡ると、道は忽ちに山間に入る。そして、なだらかな山の斜面に、牛が三々五々、あるいは立ったり、あるいは腹這つているのを遠景に見乍ら、車を走らせる。静かな、牧歌的な、この見慣れた風景は、いつも北見競馬場が私達を迎えてくれる朝の前奏曲であつた。しかし今朝は、鹿が、野生の鹿が突然に飛び込んで来たのである。だからといって、牛の群が騒いだのではない。又、車が道を飛び出して終つた、というのではないが、二、三人の「鹿」の報告は、皆を興奮させずにはおかなかつた。それはきつと、ホテルで寝食し、車で通う東京と少しも変わらない生活をし

ている私達に、北海道の自然を、単に知識以上のものをもつていなかった私達に、自然が垣間見せた「野生」を実感させたからであらう。

実はその前日、私はキツネをみた。昼休みに、蝶の採集網を持って歩いて

時であつた。目指す獲物もなく、真昼の太陽に少々グツツリして帰つて来た時、

一瞬、異様な雰囲気を感じて立ち止つた。二米と離れていない所に、キツネが見上

げていたのである。視線が合うと、そのすぐ横にあつた排水溝に、忽ち隠れて終

つた。思えば、行きにもこの道を通つたはずである。すると、その時には、この

軟かそうな草が少し凹んだ所に、キツネがヒナタボッコをし乍ら、私を見送つて

いたに違いない。そして今も、もし私が見付けなかつたら、厳しい冬に備えて、

日光浴をたのしんでいたに違いない。

このキツネは、あまり話題にならなかつた。特に、北見古参の途中は、あの向

うのーといつて走路の向うの方を指し乍ら一山際の辺に、よくキツネが通る、と

いうキツネだつたらいつでも見られる、という。しかし、白昼すぐ足下で出逢つ

た私には、ちよつとした重大事だつた。田舎育ちの私にとつてのキツネは、い

つも闇の中に光る目をもつた、姿、形をみせることのないケモノでしかなかつた。子供の世界では、タヌキもイタチも夜の

主役であつた。鶏を掠い、兎の血を吸う、人間の世界を脅かす恐しいケモノであつた。お隣の世界でも、キツネやタヌキは、いつも闇の世界、あるいは高々月明りの世界の住人である。そして昼は、裏山の洞穴の中に眠つていて、という。人間と常に対立した世界にいる、と思つていたキツネが、私の歩く道のすぐ傍で、昼寝をしていたのである。

日曜日、蝶の採集に出かけた。といつても何処に行つたらよいのかは、全く見

当がつかかなかつた。始めての土地でもあ

るし、事前の調査もなかつたので、取敢

えず休養村に行くことにした。競馬場の奥にある、ということから、多分人家は

遠く、しかも食事には困らないだらう、というだけの理由であつた。

休養村の建物は、なだらかな斜面に広がる放牧場に面した、小高い丘の上に建

つていた。その丘と放牧場の間には、トウモロコシ畑が雄大に拡がっており、そ

の左端の池の回りには灌木が茂つていた。この池の辺りが穴場だと思つた。

何度か池を回つた。又、牛の糞に氣をつ

けながら草原を歩いた。しかし、結果は散々であつた。キペリタテハを一匹網

に入れ乍ら逃したこともあつて、すつかり疲れて終つた。大体暑すぎる。たしかに木陰は涼しいが、太陽は内地より鋭く、

容赦なく照りつける。北海道の夏がこんなに暑い、とは夢にも思わなかつた。「常識」とはいかにあてにならないか思い知る。捕虫網は持つて来たのだが、帽子は

持つて来なかつたせいもあつて、早くも顔がヒリヒリと痛い。北海道迄来て、この炎天下を、どこにいるのかも判らない蝶を求めて、なんで歩いていてのか、と愚痴っぽくなる。木陰に涼んでいては、蝶を探ることは勿論出来ないのだが、嫌なことには大きなアブが追い立てるよ

うに飛び回る。昼になつたら、昼になつたら冷たいビールを、と思ひ乍ら歩いた。

しかし、矢つ張りダメだつた。山裾を

回る放牧場を一度三度歩いたが、ダメだつた。漸くの思いで食堂に帰つて来た。

しかし、三角缶を調べる氣はしなかつた。みる迄もなかつた。数匹の蝶しか入つて

いなかつたからである。すぐに食事する

氣にもならず、ビールにも手をつけずに、ボンヤリと椅子に座つていた。なぜ揺れない、いや、きつといふのは、どこに？

この儘帰る？ などと繰り返している内に、段々と悔しさが頭を上げて来た。

大家家を出る時に、子供達に自慢して来た手前もあつた。

「よし！」と決心した時は、冷いビールとも快別する時でもあつた。

再び外に立つた。太陽は濃い緑色をしたトウモロコシの葉の一枚一枚に、銀色のストライプを輝かせていた。午後の計

画は決つていた。放牧場の向うにある三、四十米許りの丘を越すことである。その丘の頂上には、十米許りの中で樹木が茂つていない部分があり、午前中に、その樹林の端に沿つて、カラスアゲハが丘を登つて行くのを、目撃したからである。

アゲハ類には蝶道というものがある、と知られている。丘の頂上の向うがどうなっているかは判らないが、泡よくば、この蝶道のどこかで、北見のカラスアゲハを数匹でも捕えることが出来れば、というのが食堂での結論であった。

覚悟はしていたが、登り始めると、丘は百米もあろうかと思わず程に苦しかった。一張羅の靴がすっかり傷んで終った。漸くにして登りつめた所は、頂上ではなかった。まだ、ドラドラと坂が続いていた。一本の細い道があった。その道に導かれて歩いた。その道がどこに通じるのか、又巧く蝶が捕えられる場所に行けるのか、そんなことは考えなかった。とても蝶がいるような雰囲気ではなかったからである。

フキのお化けのような草が茂っていた。「熊が」と一瞬思った。でも歩き続けた。その時、茶色っぽい蝶が飛んでいるのに気がついた。お化けフキの間に白い花やアザミの花が点在しているその回りに、よくみるとずっと先の方迄、群舞していた。とに角一匹、と思つて捕つてみて驚いた。クジャクチョウである。この蝶は高山蝶の一種で、内地では、ちよつと手に入らない代物である。思いがけない獲物に手がふるえた。しかし蝶がいるのは細い道から少し降りた、身の丈程あるお化けフキの中である。靴の傷みが更に激しくなることも、お化けフキの向うに熊が昼寝をしているかも知れないことも、顔や手に傷のつくことも忘れて、網を振

り回した。照りつける太陽も、今やこの千載一遇の好機を興えてくれた大恩人のように思えた。それは、多分十日も前後していたら、この蝶の群れに遭遇出来たかどうか疑問であつたからである。十五、六匹捕つて満足した。子供達や知人に分けても、十分に残るからである。

丘を降りた。そして近くの村の中も更に歩いて回つた。

ミヤカラスアゲハも二匹捕えることが出来た。クジャクチョウの中にはゴヒオドシも一匹混つていた。バスの揺れも、顔の痛みも、全身の疲れも、窓を吹き抜ける風も、何もかも全てが心持好かつた。

キーを渡そうとしたフロントが、マジマジと顔を見つめた。真赤に日焼けした顔は、人間離れしていたのである。蝶を捕つて来た、といい捨てて部屋に駆け込んだ。シャワーを浴び、服を着変えて、街に飛び出した。ビールだ!!

競馬場の準備も終りに近付いた一夕、焼肉パーティーがあつた。六角形の屋根と柱だけの建物が会場であつた。ドラム缶を縦に切ったカマボコ形の中に、炭火が一杯燃えていた。その上にトタンを載せて、ビニール袋からドサツと出した肉を燃くのである。「ウマイ」という。群がつて、めいめいが肉を焼き、野菜を頬張り乍ら「ウマイ」という。

柱によりかかつて見回すと、夕陽に山の緑が輝いてみえる。そして、恐しい程の静けさが拡がっている。時々聞こえる馬のイナナキも何もかも吸い込んで終い

そうなの静けさは、無気味でさえある。漸く暗くなって来た。肉の焼け具合を炭火で確かめるようになって来た。残つた肉は、キツネが食べに来るから放つておいてよい、と誰かがいう。あのキツネも来るのだろうか。ネズミでもよいから、野に山々に力一杯走つて欲しい、と心の片隅で思う。

隅で思う。
星は満天に闇を貫いて輝いていた。

筆者 富士通 北岡 浩



版画 阿部 信男

各地の祭典ばんば

馬産奨励事業の一環である祭典(記念)ばんば競走は発足以来本年でちょうど十年目を迎えました。本年度は申請件数が二十一件と昨年度にくらべやや少なく、また八月の台風などの影響もあり、このうち二件が中止するという結果に終わりましたが、その内容は年々充実し、バラエティーゆたかな競走が各地でみられるようになり、各主催者の努力のほどがうかがえます。

今後供市管競馬発展のために、より充実した競技会を開催し、馬産奨励にご協力願います。

ここに、各主催者より送られた終了報告書をもとにして各地の祭典(記念)ばんば競走を紹介いたします。

○池田町鞍馬競技大会

一、主催 池田町鞍馬愛好会
会長 田中 弘



スタート風景 (池田町)

- 二、開催日 六月十五日
- 三、場所 池田町清見ヶ丘特設馬場
- 四、出走頭数 四十四頭
- 五、競走数 二十二レース
- 六、入場者数 二、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ミス信取 重半 雌五才
- 八、馬主 池田町字信取 阿部 孝雄
- 九、明年度開催の予定

○浦幌町鞍馬競技大会

- 一、主催 浦幌町馬産拡興協議会
会長 坂口 岩夫
- 二、開催日 八月二十二日
- 三、場所 帯富特設馬場
- 四、出走頭数 四十八頭



レースの安全を祈願する (浦幌町)

- 五、競走数 二十二レース
- 六、入場者数 五〇〇名

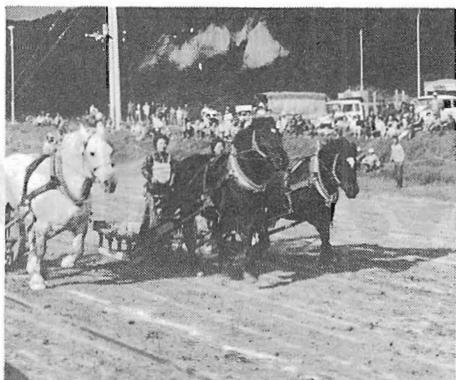
- 七、本会副賞受賞馬 ネムロロキ 雄十一才
- 八、馬主 根室市 下内 勝
- 九、明年度開催の予定
- 本別町鞍馬競技大会
- 一、主催 本別町馬事振興会
会長 新津 繁
- 二、開催日 九月十九日
- 三、場所 本別町大橋下流
- 四、出走頭数 六十七頭



本会会長賞受賞 (本別町)

- 五、競走数 三十一レース
- 六、入場者数 一、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 姫新津 半血種 雌三才
- 八、馬主 本別町仙美里 新津 繁
- 九、明年度開催の予定 九月十九日
- 足寄町鞍馬競技大会
- 一、主催 足寄町鞍馬協会

- 一、主催 鹿追町瓜幕競馬会
- 二、開催日 八月二十一日
- 三、場所 鹿追町瓜幕競馬場
- 四、出走頭数 四十三頭
- 五、競走数 三十三レース
- 六、入場者数 四〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 白王 雌十四才



“ガンバレ、かあちゃん（足寄町）”

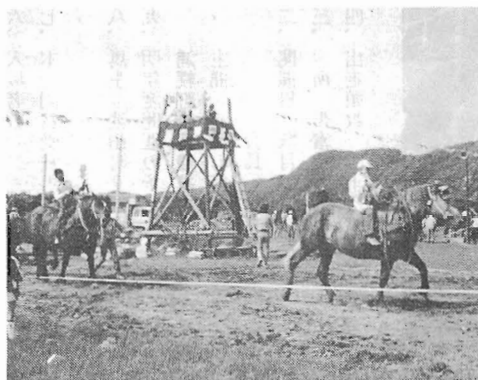
- 会長 斉藤 祐一
- 二、開催日 九月十五日
- 三、場所 足寄町お祭り広場
- 四、出走頭数 九十五頭
- 五、競走数 二十二レース
- 六、入場者数 三、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 修雲 半血種 雌十三才
- 八、馬主、足寄町 永井 満
- 九、明年度計画の予定 九月一五日



障害越へ（室蘭市）

- 八、馬主 鹿追町瓜幕 広瀬 春生
- 九、明年度開催の予定 八月二十二日
- 〇 豊浦町ばんば競技大会
- 一、主催 豊浦町馬産改良同志会 会長 西川 正
- 二、開催日 八月二日
- 三、場所 豊浦町宇浜町町有地広場
- 四、出走頭数 一〇五頭
- 五、競走数 二十レース
- 六、入場者数 八、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 北の誉 中半 雌二才
- 八、馬主、砂原町 加藤畜産
- 九、明年度開催の予定 八月月上旬
- 〇 第三十五回むろん港祭り
- 一、主催 室蘭ばんえい同志会 会長 笹浪 幸男
- 二、開催日 七月二十六日

- 五、競走数 二十五レース
- 六、入場者数 一、五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 幸子 重系 雌六才



優勝馬堂々たる行進（滝上町）

- 三、場所 室蘭市入江町埋立地
- 四、出走頭数 六十頭
- 五、競走数 十八レース
- 六、入場者数 四、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 サンボンキ ペルシユロン 雌二才
- 八、馬主 黒松内町 三本木畜産
- 九、明年度開催の予定 七月最終日曜日
- 〇 滝上町ばん馬競技大会
- 一、主催 相馬妙見神社愛好会 会長 斉藤 忠治
- 二、開催日 九月一日
- 三、場所 滝上町幸町ばんば競技場
- 四、出走頭数 五十九頭



障害での奮戦（弟子屈町）

- 八、馬主 渡辺 力雄
- 九、明年度開催の予定 地元農耕馬の出 場を促進し馬産振興に寄与する。
- 〇 第七回根室市馬事競技大会
- 一、主催 根室市馬事振興会
- 二、開催日 九月十五日
- 三、場所 根室市川口馬事公園
- 四、出走頭数 八十頭
- 五、競走数 十九レース
- 六、入場者数 二、五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ネムロリキ ペルシユロン 雌十才
- 八、馬主 根室市 下内 勝
- 九、明年度開催の予定 九月一五日
- 〇 弟子屈町馬産振興同志会
- 一、主催 弟子屈町馬産振興同志会 会長 阪口 麻一

- 二、開催日 九月六日
- 三、場所 弟子屈町鞍馬競技場
- 四、出走頭数 一〇四頭
- 五、競走数 二十二レース
- 六、入場者数 二、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 パークトップ
半血種 雌六才
- 八、馬主 弟子屈町 長谷川 義晃
- 九、明年度開催の予定 九月第一日曜日
- 〇 西胆振鞍馬競技大会
- 一、主催 西胆振鞍馬同志会
会長 森 秀夫
- 二、開催日、七月五日
- 三、場所 虻田町ばん馬競技場
- 四、出走頭数 一二五頭
- 五、競走数 二十二レース
- 六、入場者数 二、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 マツノリュウ
半血種 雄三才
- 八、馬主 阿寒町 長村 豊司
- 九、明年度開催の予定 七月第二日曜日
- 〇 下川町鞍曳競技大会
- 一、主催 下川町鞍曳実行委員会
委員長 及川 章
- 二、開催日 九月六日
- 三、場所 下川町中央大橋上流特設会場
- 四、出走頭数 八十三頭
- 五、競走数 二十八レース
- 六、入場者数 一、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 イズミ第一
半血種 雌八才
- 八、馬主 下川町 佐藤 寅太郎
- 九、明年度開催の予定 九月上旬

- 〇 佐呂間鞍馬競技大会
- 一、主催 佐呂間町畜産振興会
会長 栄 元治
- 二、開催日 九月二十六日
- 三、場所 佐呂間町農業協同組合畜産センター
- 四、出走頭数 六十九頭
- 五、競走数 二十九レース
- 六、入場者数 一、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ミスサロマ
重半 雌二才
- 八、馬主 佐呂間町 千葉 四郎
- 九、明年度開催の予定 九月二十六日
- 〇 浜中町畜霊祭典
- 一、主催 浜中町畜霊祭典実行委員会
浜中町長 中山 真
- 二、開催日 十月三日
- 三、場所 浜中競馬場



スタート風景 (下川町)

- 四、出走頭数 八十六頭
- 五、競走数 二十五レース
- 六、入場者数 七〇〇〇八〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 マルブツエース
半血種 雌二才
- 八、馬主 浜中町 出口 広樹
- 九、明年度開催の予定 十月三日
- 〇 別海町馬事競技大会
- 一、主催 別海町馬事愛好同志会
会長 半田 秀雄
- 二、開催日 九月二十二、二十三日
- 三、場所 別海町農村広場
- 四、出走頭数 一五〇頭
- 五、競走数 三十四レース
- 六、入場者数 二一、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 レットジュエル
半血種 雌二才
- 八、馬主 別海町 大道 実
- 九、明年度開催の予定 九月二十二、二十三日



ポニーの速歩レース (別海町)

- 〇 上士幌町ばんば競技大会
- 一、主催 上士幌町鞍馬同好会
会長 中島 新一
- 二、開催日 九月二十日
- 三、場所 上士幌町民グラウンド
- 四、出走頭数 六十二頭
- 五、競走数 二十五レース
- 六、入場者数 三〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 アサカセ
雌二才
- 八、馬主 足寄町 加藤 茂
- 〇 幕別町ばんば競技大会
- 一、主催 幕別町鞍馬
実行委員長 森脇 仁
- 二、開催日 九月二十七日
- 三、場所 十勝千代田えん堀樹川特設馬場
- 四、出走頭数 一三三頭
- 五、競走数 二十八レース
- 六、入場者数
- 七、本会副賞受賞馬 カチタカ
- 八、馬主 岡田 米一
- 九、明年度開催の予定
- 〇 雄武町ばんえい競走大会
- 一、主催 雄武町馬産振興会
- 二、開催日 八月十五日
- 三、場所 雄武町家畜共進会場
- 四、出走頭数 六十頭
- 五、競走数 十四レース
- 六、入場者数 二、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 タカヒメ 雌二才
- 八、馬主 雄武町宇魚田 豊田 政彦
- 九、明年度開催の予定 八月十五日

昭和56年度

北海道市営競馬協議会馬産奨励事業奨励者名簿

交付者氏名	生産者奨励		
	住 所	出走馬名	血統馬名
加藤 長三郎	足寄郡足寄町昭和	ササノチカラ	竜 鳴
宮川 貞夫	〃 〃 字ラワン高台	クインローズ	第一 刀 巻
〃	〃 〃 〃	キタノナンシ	勝 勇
青木 栄	〃 〃 字中足寄	イチホウオー	春 駒
永井 満	〃 〃 〃	ゼットボーイ	修 宝
平野 紋三	〃 〃 字足寄	リキヒメ	第二 姫
後藤 有弘	〃 〃 字奥足寄	カワチドリ	秋 浪
相沢 醇一	〃 〃 ラワン	アイザンオー	朝 日
石井 寅一	〃 〃 字ラワン高台	スターダッシュ	雄 山
宮崎 貞太郎	〃 〃 字西一線	ムツヒメ	貞 姫
尾西 寛正	〃 〃 字愛冠	ヤマトオーカン	誉
高橋 要一	〃 〃 字下斗伏	ヤシマテンリュウ	白 宝 山
北村 治嘉	中川郡池田町字清見	リュウハヤテ	ジャンデュマレイ二世
館盛 清	〃 〃 字昭栄	ヒロタカラ	第五コマリュウ
岩佐 勝明	〃 〃 字千代田	アサヒタイガ	ベルジャン雄
〃	〃 〃 〃	カゲシンザン	勝 栄
鈴木 寅治	〃 〃 字川合	ロングタカラ	大 宝
〃	〃 〃 〃	タカラキンテツ	金 鉄
金川 貞雄	〃 〃 字豊田	ヤマトホープ	烈 宝
太田 和治	〃 〃 字千代田	ハクマサヒカリ	夕 雅
京極 広	〃 〃 字常盤	サンダーキング	楽 宝
鈴木 正春	〃 〃 字信取	タカシマイチ	豊 宝
上田 健一	〃 〃 字青山	オウカン	星 錦
松本 功	〃 〃 字常盤	シゲフジ	松 錦
小枝 武夫	十勝郡浦幌町幾千世	アサヒ	タカラコマ二世
野口 元之助	〃 〃 統太	キタノオーザン	敵 勇
神谷 勲	〃 〃 〃	ワカトラエース	銅 鉄
笹島 貞吉	〃 〃 宝生	シンメイ	第二 北ノ湖
古川 正人	〃 〃 川上	カツラノセイコー	勇 峯
川端 正清	河東郡音更町東和錦区	カネヒロパワー	清 宝
古内 勇	〃 阿寒町布伏内	テツイワイ	光 勇
高山 稔	〃 〃 字中音更大牧	ラッキーホース	牧 駒
菊原 亀松	白糠郡音別町音別番外地	アサヒヤマ	淀 松

交 付 者 氏 名	生 産 者 奨 励		
	住 所	出 走 馬 名	血 統 馬 名
田 中 栄 一	河東郡音更町下士幌	キ タ ノ ク ロ ス	春 日
定 岡 武 人	〃 〃 東音更敷区	イ ワ テ オ ー	悌 栄
安 海 吉 雄	〃 〃 大通6丁目	マ ル ヤ ス ホ マ レ	第 二 足 栄
谷 口 鶴 之 助	〃 〃 東音更忍区	タ ニ ノ カ チ ド キ	谷 の カ チ ド キ
門 寿 雄	中川郡豊頃町仁徳	タ カ ラ ヨ シ ウ メ	宝 梅
〃	〃 〃 〃	リ キ オ ー シ ョ ウ	宝 雄
小 沢 信 義	〃 〃 字牛首別	ヤ マ ト ウ ン リ ュ ウ	豊 沢
近 勝 行	〃 〃 字長節	ホ ッ カ イ タ カ ラ コ マ	秀 雄
松 崎 サ ヨ	〃 〃 字牛首別	ヤ マ ト オ ー ザ	家 風
九 本 忠 男	〃 〃 字湧洞	セ ン リ オ ー	宝 栄
〃	〃 〃 〃	ニ マ ツ カ ゼ	宝 玉
川 向 義 信	〃 〃 字牛首別	タ カ ラ テ ン リ ュ ウ	宝 西
〃	〃 〃 〃	キ タ ノ ミ カ サ	宝 信
〃	〃 〃 〃	イ ナ ヒ カ リ	宝 竹
武 内 二 郎	〃 〃 字石神二	ト ヨ サ カ エ	勇 雲
〃	〃 〃 〃	タ カ ラ ヤ マ ブ キ	山 吹 玉
小 沢 純 太 郎	〃 〃 字牛首別	ア ラ ナ ミ オ ー	春 雪
青 木 茂	〃 〃 字旅来	ダ ン ガ ン	英 宝
原 田 耕 吉	〃 〃 字大川	エ ゾ コ ガ ネ	清 国
永 原 松 太 郎	〃 〃 字北星	ヤ マ ハ ナ シ ン ザ ン	十 勝 力
衣 原 藤 雄	〃 〃 字北星二	マ ル ト シ ョ ー ジ	宝 星 星
吉 村 孝 次 郎	〃 〃 字二里塚	ヒ カ ル コ マ	北 宝
船 越 栄 太 郎	〃 〃 字保栄	タ マ イ サ ミ	豊 風
観 野 敏	〃 〃 字久保	ト チ ニ シ キ	富 駒
佐 渡 忠 孝	〃 幕別町西猿別	ス ズ ホ マ レ	ベルジャン二世
高 井 サ ヨ 子	〃 〃 相川	カ ズ エ ー	宝 ト ッ プ
東 原 武 夫	〃 〃 明野	マ ツ ノ パ ン サ ー	北 の 海
大 西 信 夫	〃 〃 茂発谷	タ ツ マ キ ニ セ イ	二 世 久 都
高 橋 宗 吉	〃 〃 豊岡	カ イ ソ ク	ベ ル 栄
浅 井 嘉 一	〃 〃 軍岡	ク ラ シ ッ ク サ イ ヤ ー	宝 花
〃	〃 〃 〃	ロ イ ヤ ル ニ セ ー	宝 嘉
加 藤 二 三 夫	〃 〃 千住	ダ イ ゴ ロ ウ	勝 光
宮 本 喜 五 郎	〃 〃 豊岡	ピ カ リ ュ ウ	豊 錦
川 田 武 一	〃 〃 相川	マ ル タ カ オ ー	第 二 あ や め
〃	〃 〃 〃	コ テ ツ	旭
松 嶋 繁 芳	〃 〃 西猿別	ト カ チ コ マ	芳 都
矢 竹 喜 市 郎	〃 〃 相川	ア ザ ミ	第 二 ベ ル 姫
二 瓶 長 松	〃 〃 豊岡	イ ワ ノ チ カ ラ	朝 風

交 付 者 氏 名	生 産 者 奨 励		
	住 所	出 走 馬 名	血 統 馬 名
遠 藤 長 三	中川郡本別町拓栄	マ ル ト カ チ	更 勝
星 崎 幸 成	〃 〃 奥仙美里	ト カ チ ニ セ イ	初 光
糸 田 幸 利	〃 〃 勇足東3区	カ チ ホ ー プ	春 栄
下 村 竹 夫	広尾郡大樹町字生花	オ パ ー ル	宝 駿
岩 岡 昇	〃 〃 字寿	ア カ ギ テ ン リ ユ ウ	鈴 勇
矢 萩 一 郎	河東郡鹿追町笹川北13線12	チ カ ラ ボ シ	勇 駒
後 藤 秀 隆	〃 上土幌町字上土幌	カ チ オ ー ザ ン	秀 山
村 上 上 繁 太 郎	〃 〃 字上土幌清水台	カ シ ロ キ ン リ ユ ウ	鉄 昇
飛 鷹 武 夫	足寄郡陸別町字猿別	ヒ ー ロ ー	北 斗
山 崎 義 一	〃 〃 字川向	イ チ リ キ ジ ョ ウ	雄 山
高 島 義 諦	河西郡更別村字更別西4線18	キ ョ ク オ ウ	北 星
鹿 庭 信 一	網走市字実豊103番地	サ ク ラ シ ェ ー ン	北 栄
山 本 巧	〃 字卯原内25番地	ブ ル ー ム ー ン	第 二 美 鶴
安 部 信 男	〃 字中園495番地	グ ラ ハ テ ヒ メ	春 花
萩 原 和 幸	北見市柏木38	タ ー ザ ン	明 勇
北 口 一 夫	〃 〃 275	ク ド ウ オ ウ ザ	威 武
木 下 繁	〃 大正318	キ タ ノ サ チ	初 駒
藤 枝 勝 行	紋別市渚滑町下渚滑397～3	ト モ ザ ク ラ	藤 姫
東 川 貞 一	〃 上渚滑町下立牛	ダ イ シ ャ カ	栗 竜
木 村 専 治	〃 南ヶ丘町7丁目	シャリヒーロー	楓 栄
脇 本 哲 文	常呂郡佐呂間町字仁倉	ダ イ シ ョ ウ リ	宝 駒
伊 丹 実	〃 〃 〃	タ イ セ ツ	銀 勇
近 藤 徹	〃 〃 字登美	キ ョ ク ユ ウ ザ ン	盤 竜
横 畠 義 雄	〃 〃 字武士	リ キ ア ズ マ	佐 呂 間 勝 利
柴 田 秀 雄	〃 〃 字仁倉	ク シ ロ ホ ー プ	第 三 サ ロ ヒ メ
岡 崎 幹 夫	〃 〃 〃	ス タ ー テ ン リ ユ ウ	桜 燕
佐 藤 峯 雄	紋別郡遠軽町字栄野348	ミ ネ オ ー ザ	真 栄
〃	〃 〃 〃	ト キ ノ オ ー ザ	朝 栄
筒 井 弘 義	〃 〃 字豊里265	ダ イ イ チ ハ ツ ヒ メ	第 一 初 姫
〃	〃 〃 〃	ト ッ プ メ ー カ	第 一 呂 雄
片 平 信 淵	斜里郡小清水町字美和4	ヤ マ ト	留 福
梅 田 武 市	〃 〃 字中里三	キ タ ミ ト ッ プ	白 竜
西 内 譲	常呂郡常呂町字富岡	ア リ ー	飛 竜
松 原 豊	〃 〃 字岐阜340	シャリクイン	鈴 姫
鈴 木 由 雄	紋別郡雄武町曙	シャリフブキ	森 緑
宮 嶋 要 助	〃 〃 中幌内	タ ツ ミ リ ユ ウ	宮 登
波 多 野 太 郎	〃 〃 栄岡	ア リ ス ニ セ イ	望 光
藤 田 芳 信	〃 湧別町志撫子	ア ロ ー ス タ ー	北 栄

交 付 者 氏 名	生 産 者 奨 励		
	住 所	出 走 馬 名	血 統 馬 名
児 島 和 夫	紋別郡湧別町西芭露	カツラホマレ	北 ノ 駒
小 野 勝 一	〃 〃 字中湧別	ダイニオノショウ	第二オノショウ
安 田 貢	網走郡女満別町字住吉450	ウシオドトー	優 菊
佐 野 敏 治	〃 〃 字朝日396	サチサカエ	朝 風
榊 原 利 治	常呂郡端野町北登	アバシリイチ	豊 進
重 富 喜 義	〃 〃 緋牛内	テツアラシ	富 王
山 内 清	網走郡津別町字豊永	ニホンザクラ	日 本 桜
〃	〃 〃 〃	クインテスコ	トキノエイユ姫
岩 淵 幸 雄	常呂郡訓子府町柏丘	ツルアサヒ	鶴 姫
畑 中 秋 幸	網走郡斜里町中斜里	ニイビジョン	斜 里 ニ シ キ
吉 井 勇	〃 東藻琴村字西倉125	ホマレベンケイ	北 の 湖
高 谷 鉄 造	釧路市駒牧9の107	キタノムテキ	第 二 丹 楽
福 西 光 雄	〃 新橋大通4の2	サンダー	四 葉
釧 路 農 協 連	〃 黒金町12丁目	ホッカイトンリュウ	実 昭
〃	〃 〃 〃	クリホープ	実 隆
山 根 義 勝	〃 鳥取大通9	バンコイチ	緑 山
酒 井 時 次 郎	釧路市山花13の138	アシダハヤテ	富 興
藤 田 竹 蔵	白糠郡白糠町茶路川西	ハイスピード	花 山
大 井 勇	〃 〃 東茶路	サムソン	第三ロッシーニ
古 内 要 一 郎	〃 〃 茶別縫別	カショウー	香 勝
川 原 和 雄	〃 〃 庶路暁	タケオーザン	宝 優
松 野 宏	〃 〃 庶路末広	クシロオーカン	駿 優
馬 場 義 弘	〃 〃 庶路暁	ヤマトカチドキ	栄 進
高 原 嘉 一	〃 〃 下茶路	ツシマシラユキ	白 原
若 林 茂	阿寒郡阿寒町中阿寒	クシロオーザ	若 及 湖
木 村 晴 一	〃 〃 中央町	アケマル	銅 秀
橋 本 君 徳	〃 〃 西阿寒	キヨザクラ	徳 桜
古 内 勇	〃 〃 布伏内	クリキング	阿 寒 誉
照 井 嘉 一	〃 〃 北町	シンザンムサシ	第 三 オ デ オ ン
佐 藤 キチノ	〃 〃 仁々志別共和	ジンリュウ	共 和 竜
渡 辺 三 郎	川上郡弟子屈町厚野	ロイヤルキング	銅 花
伊 藤 信 義	〃 〃 南弟子屈	ミサワノボル	第三ショウワオン
加 藤 豊 雄	〃 〃 奥春別	キタノカカエ	北 の 明 星
佐 藤 久 一	〃 標茶町北片無去	ホマレアサヒ	浪 山
大 道 実	野付郡別海町海新栄町9	キャラバン	銀 海
松 岡 清 治	〃 〃 上風連179～6	ネムロイチ	鉄 竜
長 谷 川 長 一	標津郡標津町字桜木	ヒデイサミ	根 室 錦
種 田 勝 之 進	勇払郡穂別町字豊田	トヨタサカエ	富 昭

交 付 者 氏 名	生 産 者 奨 励		
	住 所	出 走 馬 名	血 統 馬 名
工 藤 幸 吉	勇払郡穂別町字茂別	フクエーマル	穂 別 力
小 沢 末 松	〃 〃 字豊田	エトワール	水 月
山 本 雄 輝	〃 〃 字仁和下	シチフク	若 乃 花
五十嵐 清 吉	〃 〃 字和泉下	シンザンマル	第 十 和 泉 姫
深 谷 米 男	〃 〃 字豊田	スイゲツ	三 日 月
西 川 正	虻田郡豊浦町字桜	ホマレニシキ	楽 勝
前 田 正 雄	〃 〃 字豊泉	エサシカイジン	改 山
矢 野 清 志	〃 〃 字桜	サワラタカシ	二 世 ウ ル バ ン
岩 倉 正 幸	有珠郡壮瞥町滝の町60番地	イブリヒメ	二 風 姫
高 畑 重 光	〃 〃 字立香	カイシンオ	桜 玲
浅 野 勝 喜	勇払郡厚真町字守隆	マルトカチヨシ	富 士 の 力
高 橋 義 雄	苫小牧市常盤町1丁目5の1	ダイイチテンリュウ	花 輪 ロ ッ シ ー ニ
酒 井 秀 克	勇払郡早来町緑丘	マルトロック	勝 竜
奥 浜 盛 雄	〃 追分町弥生	ホウフウ	勇 山
密 石 秀 雄	沙流郡日高町字千栄	ニッシュウツバメ	疾 風
長 谷 部 信 悦	〃 〃 字日高	ヒキノヤマ	千 剛
大 場 茂	〃 〃 字三岩	ヒノデコマ	栄
松 本 清 志	新冠郡新冠町字若園	ニイカップオー	勇 秀
関 村 清	〃 〃 字泉	レイオンヒメ	宏 姫
貞 広 朴	沙流郡門別町字旭町	ヒダカゴウリキ	日 高 麒 麟 児
内 藤 正 弘	〃 平取町荷負	テルタカラ	栄 藤
岡 田 巧	夕張郡長沼町東8南9号	ユニイチ	第 五 マ ー ド
片 山 光 夫	〃 〃 東町	アキホマレ	優 春
〃	〃 〃 〃	アイクリン	第 八 世 ピ ー ト ラ ス
松 田 昇	夕張市清水沢宮前町	タケシ	初 駒
小 山 春 正	空知郡栗沢町茂世田	カミノハヤテ	春 駒
岩 城 米 光	旭川市東旭川町上兵村63	イワイサミ	管 勇
嶋 田 孝 四 郎	富良野市山部東20-17番地	シマノチカラ	宝 山
千 葉 那 男	上川郡美瑛町字藤山	ヒメセイコ	伯 葉
〃	〃 〃 〃	トウリョウ	三 雲
松 本 武 敏	〃 下川町中盛	ロウヤルホープ	松 栄
田 中 一	中川郡美深町大牛	アサヒボシ	北 栄
池 田 松 男	天塩郡天塩町字振老	マツオブルー	第 二 カ プ ト モ リ
今 野 惣 吉	〃 〃 字山手裏2丁目	アンテン	天 塩 姫
小 川 政 吉	〃 幌延町字開進25	ヒロイン	一 姫
吉 田 力	稚内市大黒町5の8	アンテンオー	藤 勇
鶴 卷 幸 次	石狩郡当別町字青山四番川	アオヤマトップ	第 一 エ タ ロ ン
鶴 卷 広 一	〃 〃 〃	ツルマキ	青 山

交付者氏名	生産者奨励		
	住 所	出走馬名	血統馬名
関 作 治	虻田郡京極町大豊161	トキノアカツキ	京 極
加 藤 正 司	岩内郡共和町老古美	ホクホウ	第 二 朝 宝
木 村 義 雄	虻田郡真狩村字桜川	ニカイジン	北 の 湖
杉 林 広 光	〃 今金町字今金432	イマガネチェリー	〃
岡 林 与 吉	〃 〃 字白石229	ナナエオオザン	初 桜
高 田 由 太 郎	〃 〃 字田代387	ワカコマ	田 代
浅 野 太 志	桧山郡北桧山町字豊里	タケトツプ	浅 野
並 川 義 輝	〃 〃 字東丹羽	クリコマ	オデコマ姫
坂 本 辰 雄	茅部郡砂原町度杭崎	サワラミドリ	砂 原 天 竜
山 崎 正	山越郡長万部町本町134	ヤマライデン	第五ルクスウー姫
渡 部 常 夫	亀田郡七飯町字上軍川	カヤベシンザン	第 二 隼

競走経歴繁殖雌馬奨励金交付者

交付者氏名	競走経歴繁殖雌馬奨励		
	住 所	繁殖雌馬名	出走馬
鶴 卷 幸 次	石狩郡当別町青山四番川	タキヒメ (第一清流)	アオヤマトツプ
岩 淵 幸 夫	常呂郡訓子府町字柏丘18番地	ツルヒメ (流星)	ツルアサヒ
浅 野 勝 喜	勇払郡厚真町字宇隆	エタロンヒメ (北の富士)	マルトカチヨシ
大 道 実	野村郡別海町新栄町	リシリフジ (銀姫)	キャラバン
坂 本 辰 雄	茅部郡砂原町度杭崎	サワラナミ (銀姫)	サワラミドリ

競走経歴種雄馬管理者奨励金交付者

交付者氏名	競走経歴種馬管理者奨励		
	住 所	種雄馬名	出走馬名
豊 頃 農 協	中川郡豊頃町中央若葉12番地	タカラコマ	ヤマトオーザ 他9頭
虻 田 農 協	虻田郡虻田町旭町30番地	ヒタチオー	ダイイチテンリュウ 他4頭
多 村 一 見	勇払郡徳別町字稲里	ビヒロテンリュウ	フクエマール 他3頭
千 貝 義 雄	稚内市緑町1の1	ダイニアンテン	アンテンオー 他2頭
本 寺 菊 雄	中川郡本別町	トカチマル	マルトカチ 他1頭
高 畑 静 男	有珠郡壮瞥町字立香51番地	カイジン	エサシカイジン 他2頭
森 春 蔵	中川郡本別町北4丁目	ソラチオー	シンメイ 他2頭
三 上 秀 雄	勇払郡徳別町徳別	ホクトサカエ	トヨサカエ 他1頭
岩 本 政 治	石狩郡当別町対雁	ハクシヨグン	ツルマキ
池 和 夫	紋別郡滝上町幸町	フジトツプ	トモザクラ
山 根 義 勝	釧路市鳥取大通9	ラクショウ	バンコイチ
端 正 行	川上郡弟子屈町金当別	イシノシンボル	ホマレアサヒ
田 村 勝	河東郡音更町字東音更稲穂	カチサカエ	カネヒロパワー
大 森 信 明	上磯郡上磯町東浜町390	ソラチコマ	カヤベシンザン
森 力 蔵	中川郡豊頃町茂岩	アラナミ	アラナミオー

5. 負担重量

(1) 騎手重量は75kgとする。

(2) ばんえい重量

ア 3才馬

ばんえい重量は500kgとし本年取得賞金60万円につき10kgの加増を行なう。

なお、ばんえい重量は9月4日から510kg、10月30日から520kgとし本年取得賞金60万円につき10kgの加増を行なう。

イ 4・5才馬

3才時よりの通算取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。

取得賞金	600万円未満	420万円未満	310万円未満	210万円未満	120万円未満
ばんえい重量	640kg	620kg	600kg	580kg	560kg

ウ 4才以上

昭和54年以降の取得賞金により、次に掲げるばんえい重量とする。

ただし、4・5才馬で編入する馬は、同額賞金クラスに編入し競走において10kgを減量する。

取得賞金	1,450万円以上	1,450万円未満	1,150万円未満	900万円未満	750万円未満	600万円未満	450万円未満	300万円未満
ばんえい重量	700kg	700kg	680kg	660kg	640kg	620kg	600kg	600kg

(3) 雌馬は競走において10kg減量する。

(4) 普通競走において全馬のばんえい重量が高重量となるときは、全馬の重量を一率に減ずることができる。

(5) 普通及び別定競走において委員長の指定する騎乗騎手は、通算勝利度数により10kg減量する。

6. 騎乗の制限及び減量騎乗騎手の取扱いについて

(1) 騎乗騎手の1日の騎乗回数は6回までとし、連続騎乗できる回数は3回を限度とする。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

(2) 騎乗を変更した騎乗騎手は、翌日の騎乗を認めない。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

(3) 委員長が指定する減量騎乗騎手は、数え年30才以下の騎乗騎手で通算勝利度数25勝未満の者とする。ただし、減量騎乗騎手扱いで、すでに出走投票された競走については25勝以上となっても減量騎乗騎手と同様の扱いとする。なお、出馬表には☆印で表示する。

7. この要領に定めるものの他、番組編成上必要な事項については、番組編成会議で別に定める。

番組編成要領

(1) 番組編成

ア 番組編成要領について

1. 出走馬の資格

次の各号全部の条件をそなえていること

- (1) 地方競馬全国協会の登録を受けた馬
- (2) 軽種及び軽半血種以外の種類
- (3) 日本国内で生産された馬
- (4) 新馬 3才
古馬 10才以下（再登録馬は6才以下の馬）
- (5) 馬体重 3才 700kg 以上の馬
4才以上 750kg
- (6) 馬体検査、能力調教検査に合格した馬（他競馬場において合格した馬を含む）

2. 出走の拒否

- (1) こ疾の程度が重く、又は外観上みにくい馬。
- (2) 出走取消をした馬及び競走除外馬（同枠除外を除く）は、その開催の残余期間。
- (3) 尋常てい鉄を使用しない馬。
- (4) 調教が充分でない癖馬及び失明馬（片眼馬を含む）

3. 出走頭数の制限及び競走の取り止め

- (1) 1競走における出走頭数は、10頭以下とする。
- (2) 普通競走において、前項に定める頭数を超えて出走投票があった場合は、抽選により出走馬を決定する。
- (3) 前項により出走できなかった馬は、競走番組で示す当該馬が出走できる最初の競走に限り出走投票した馬に優先出走を認める。
- (4) 出走投票の結果、1競走の頭数が5頭以下の場合は、その競走を取り止め新たに競走を設けることができる。ただし、偶発的事故、疾病等により出走を取り消し又は、競走除外を命じた場合を除く。

4. 競走の区別

取得賞金額（1着～5着まで以下同じ）により編成し年令別に次のとおりとする。なお、取得賞金は特に記載のない限り前回までの合計とする。

3才 3才馬のみの編成とする。

4・5才 4・5才馬の混合編成とし、通算取得賞金600万円以上の馬は、4才以上の競走に編入する。

4才以上 4才以上の混合編成とする。

報 償 費

イ 57年度報償費について

1. 馬主に関するもの

- (1) 賞 金 競馬番組で示した金額
- (2) 出走手当 次に該当する馬の馬主に対し支給する。
- (ア) 競走に1回以上出走したとき
- (イ) 特別報償金の受給資格のあるとき

出走手当	45,000円
------	---------

- (3) 着外手当 競走に出走し6着以下の馬の馬主に対し、次の区分により支給する。ただし、失格及び競走中止の場合は支給しない。

重賞競走	1着賞金 300万円以上	100,000円
	1着賞金 300万円未満	40,000円
特別競走		25,000円

- (4) 特別報償金 次に該当する馬の馬主に対し支給する。
- (ア) 出走投票の結果1競走の出走頭数が5頭以下のため競走が取り止めになったとき又は、制限頭数を越えたため抽選により出走できなくなったときとし、当該開催競馬において同一馬につき1回とする。

ただし、当該開催の競走に出走した馬を除く。

- (イ) 競走除外等で同枠のため除外(友引)になったとき。
- (ウ) 天災その他やむを得ない理由により開催当日に、競馬又は競走を取り止めたとき。

(ア)のとき	その競走の5着賞金、ただし30,000円を限度とする。(調教奨励金、騎乗奨励金、きゅう務奨励金においてもこれに準ずる。)
(イ)のとき	その競走の3着賞金(調教奨励金、騎乗奨励金においてもこれに準ずる。)
(ウ)のとき	その競走の賞金と着外手当の合計額を出走頭数で按分した範囲の額。(調教奨励金、騎乗奨励金、きゅう務奨励金においてもこれに準ずる。)

- (5) 輸送手当 競馬場毎に1回以上出走した馬(特別報償金受給資格を有した馬を含む)の馬主に対し当該競馬場毎に支給する。

輸送手当	12,000円
------	---------

2. 騎手に関するもの

- (1) 調教奨励金

競走に出走した馬の調教騎手に対して支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。 条例第102条 ○○市地方競馬実施○○規則第99条の規定により調教業務の委託を受けた調教騎手に対し、当該競走にかかわる調教奨励金を支給する。

区 分	1 着	2 着	3 着	4着以下
調教騎手	27,000円	23,000円	18,000円	13,500円

- (2) 騎乗奨励金

競走に出走した馬の騎乗騎手に対して支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

区 分	1 着	2 着	3 着	4着以下
騎乗騎手	18,000円	14,000円	12,000円	9,500円

3. きゅう務員に関するもの

- (1) きゅう務奨励金

出馬確定した馬のきゅう務員に対して支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しない。

また、管理頭数は4頭を限度とする。

区 分	1 着	2 着	3 着	4着以下
きゅう務員	17,000円	13,000円	11,000円	8,500円

(受給対象者は、北海道市営競馬協議会会長のきゅう務員認定を受けた者であって、地方競馬共済会に加入している者のうちから専業きゅう務員として認めた者)

4. 生産者に関するもの

- (1) 生産者賞

重賞競走において第1着となった馬の生産者に対し、次に掲げる額を支給する。

1着賞金の3%相当額

昭和56年度道営競馬成績

競馬場	期別	売得金額	1日平均	賞金額	入場人員	1日平均
岩見沢市	1	1,810,666,200	301,777,700	83,410,000	44,039	7,340
	2	1,413,797,800	235,632,966	80,218,000	27,077	4,513
	3	1,404,345,000	234,057,500	80,980,000	24,190	4,032
	4	1,522,777,400	253,796,100	84,208,000	24,612	4,102
	計	6,151,586,400	256,316,100	328,816,000	119,918	4,996
旭川市	1	996,895,600	166,149,266	85,533,000	20,726	3,454
	2	908,929,500	151,488,250	87,153,000	17,356	2,893
	3	1,182,326,700	197,054,450	80,693,000	23,011	3,835
	計	3,088,151,800	171,563,988	253,379,000	61,093	3,394
帯広市	1	719,427,100	119,904,516	89,471,000	15,948	2,658
	2	777,775,300	129,629,216	87,039,000	15,702	2,617
	3	1,031,960,700	171,993,450	90,174,000	22,016	3,669
	4	881,795,400	146,965,900	83,714,000	17,183	2,864
	5	1,022,007,400	170,334,566	90,744,000	18,760	3,127
計	4,432,965,900	147,765,530	441,142,000	89,609	2,986	
札幌市	1	2,709,273,300	451,545,550	85,234,000	67,861	11,310
	2	2,667,933,000	444,655,500	97,698,000	56,407	9,401
	3	2,430,839,400	405,139,900	109,098,000	45,833	7,639
	4	2,546,577,200	424,429,533	118,161,000	50,315	8,386
	5	2,678,464,800	446,410,800	98,838,000	51,415	8,569
計	13,033,087,700	434,436,256	509,029,000	271,831	9,061	
合計	計	26,705,791,800	261,821,488	1,532,366,000	542,451	5,318

昭和56年度市営競馬成績

主催者	期別	売得金額	1日平均	賞金額	入場人員	1日平均
帯広市	1	1,018,491,000	169,748,500	53,010,000	25,730	4,288
	2	1,445,065,500	240,844,250	57,532,000	34,375	5,729
	3	1,083,990,400	180,665,067	69,186,000	21,340	3,557
	4	1,059,219,200	176,536,533	71,478,000	19,998	3,333
	5	1,422,218,300	237,036,383	93,222,000	25,010	4,168
計	6,028,984,400	200,966,147	344,428,000	126,453	4,215	
旭川市	1	1,474,717,400	245,786,233	70,900,000	32,913	5,486
	2	1,770,886,500	295,147,750	76,294,000	37,443	6,241
	3	1,594,917,400	265,819,567	75,734,000	32,627	5,438
	4	2,040,842,300	340,140,383	83,546,000	39,164	6,527
計	6,881,363,600	286,723,483	306,474,000	142,147	5,923	
北見市	1	1,154,903,500	192,483,917	48,922,000	25,338	4,223
	2	1,309,930,200	218,306,017	50,632,000	27,134	4,522
	3	1,951,934,600	158,655,767	53,048,000	18,356	3,059
	4	1,314,689,500	219,114,917	55,252,000	25,694	4,282
	5	1,226,239,000	204,373,167	49,438,000	22,259	3,710
計	5,957,602,700	198,586,757	257,292,000	118,781	3,959	
岩見沢市	1	1,371,851,400	228,641,900	66,660,000	28,857	4,810
	2	1,242,479,800	207,079,967	66,602,000	23,783	3,964
	3	1,879,615,000	313,269,167	77,170,000	41,033	6,839
	4	1,434,215,600	239,035,933	87,938,000	26,523	4,421
計	5,928,161,800	247,006,742	298,370,000	120,196	5,008	
合計	計	24,796,112,500	229,593,634	1,206,564,000	507,577	4,700

昭和56年度種雄馬ランキング

3 才

順位	種類	馬名	頭	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	半血	タカラコマ	27	55	58,423,000	タカラソウシン、タカラショウリ
2	ベル	二世ロッシーニ	27	46	39,350,000	シゲノハラニセイ、トヨタカ
3	ベル	マルゼンストロングホース	12	18	19,475,000	ロイヤルホース、コマサカエ
4	ベル	第二オデオ	13	23	17,760,000	ヤシロショウショウ、ハクイチ
5	ベル	楓久朝	14	21	17,097,000	キタノカイリキ、ホマレエース
6	ベル	銅都	9	12	14,537,000	キンショウリ、ゴールデン
7	ベル	久銅	8	14	12,574,000	カイセイ、ロイヤルシンザン
8	半血	ダイニアンテン	7	13	10,295,000	アンテンニセイ、リンガーハット
9	ベル	ジアンデユマレイ	5	9	8,879,000	ベルシエ、ジャンデホマレ
10	ベル	ジョンエレガント	4	12	7,697,000	アサヒテンリュウ、トカチボタン
11	ベル	系フジトッブ	4	7	5,496,000	パワスキー、マツフジセンブー
12	ベル	産フジ	5	8	5,455,000	カゲオーザ、エリモムサシ
13	ベル	系ホー	3	5	5,063,000	マルモキロク、サダノイワ
14	ベル	ヒタチオー	1	3	4,557,000	イワテタイガー
15	半血	トカチマル	1	3	4,140,000	ヒメトカチ
16	ベル	カウント・オン・イト	3	7	3,392,000	タカラハヤト、アメリカンホース
17	ベル	流桃	2	4	2,987,000	カゲコマ、トヨヒカリ
18	ベル	ボヌー	2	3	2,869,000	シャリスルズミ、アラタマ
19	ベル	ハシブル	1	2	2,760,000	シャリホマレ
20	半血	宝勇	2	5	2,632,000	ゴールドエース

4・5 才

順位	種類	馬名	頭	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ベル	二世ロッシーニ	24	49	59,872,000	キングタロー、ヤマト
2	半血	タカラコマ	40	58	53,827,000	ヤマトウンリュウ、タカラヨシウメ
3	ベル	ジアンデユマレイ	14	38	35,318,500	トカチボシ、リュウハヤテ
4	ベル	楓朝	22	46	34,212,500	ホマレタイショウ
5	ベル	ボル	8	19	24,673,000	ハイスピード、イデサカエ
6	ベル	銅柑	5	8	9,454,000	ロイヤルキング、アケマル
7	ベル	マルゼンストロングホース	5	6	8,767,000	マルトダンサー、アオヤマトッブ
8	ベル	ヒタチオー	3	10	8,702,500	ヤシタフジ、ホマレニシキ
9	ベル	第二オデオ	5	9	7,700,000	ゼットボーイ、ササノチカラ
10	ベル	産蝶	7	10	7,349,000	シンザンサカエ
11	ベル	武雄	2	3	6,416,000	カミシホロトッブ
12	中半	オス雄	3	8	5,733,000	カミタカラ
13	ベル	ボヌー	4	6	5,701,000	アサヒダケ、リキヒメ
14	ベル	グリフオン	4	9	5,288,000	ネムロキンセイ、ミサワノボル
15	ベル	キブロン	4	9	5,265,500	ハクマサヒカリ、ニイカップオー
16	ベル	第三オデオ	2	4	5,020,000	モンスター
17	ベル	リッペン	1	4	4,042,000	ソウヤコマ
18	半血	ビホロテンリュウ	4	6	3,935,000	スイゲツ、フクエーマル
19	ク	コレッシーエンタープライズ	1	3	3,915,000	メイハウザン
20	ベル	イドロ	1	1	3,692,000	サクラシエーン

6 才以上

順位	種類	馬名	頭	勝	取得賞金	おもな出走馬
1	ベル	楓朝	12	29	77,182,000	キヨヒメ、キョウエイ
2	ベル	鉄鯉	21	28	45,447,000	キンバイ、ジャスマン
3	ベル	二世ロッシーニ	11	15	32,332,000	ハヤホマレ、ムツ
4	ベル	2世ロッシーニ	7	11	24,004,000	キタノサブロー、ユウホウ
5	ベル	第二オデオ	4	4	21,015,000	カイリキ、ソラチホウシュウ
6	ベル	ダンデイル	6	12	18,715,000	キョクイチ、ヤマサラッキー
7	ベル	ボヌー	4	7	14,608,000	キンボシ、リュウショウ
8	重半	カチサカ	6	11	14,601,000	ドラゴンダッシュ、キングヒメ
9	ベル	ボル	6	13	14,431,000	モリチカラ、トキノロブスト
10	ベル	第三オデオ	4	9	12,959,000	リュウタロー、ソラチキリン
11	ベル	久都	5	12	11,810,000	リウリキ、スイショウ
12	ベル	アレ	6	7	11,334,000	ドウホクチドリ、ブラックパワー
13	ベル	アブレ	7	8	11,270,000	マサヒカリ、アサカゼ
14	ベル	得良	3	9	11,037,000	ヒメサカエ、セイショ
15	ベル	ジアンデユマレイ	3	3	9,854,500	リュウタカラ、マサカツ
16	ベル	マルゼンストロングホース	4	6	8,721,000	タミオヒメ、スターカップー
17	中半	盛幸	2	6	8,107,000	サツキホマレ
18	ベル	ベルヴオンシエ	2	5	7,525,000	トキノハヤブサ、ハッキントッブ
19	ベル	ルア	1	2	7,310,000	グランプリ
20	ベル	丹朝	2	4	6,776,000	シゲミツ、コマカブト

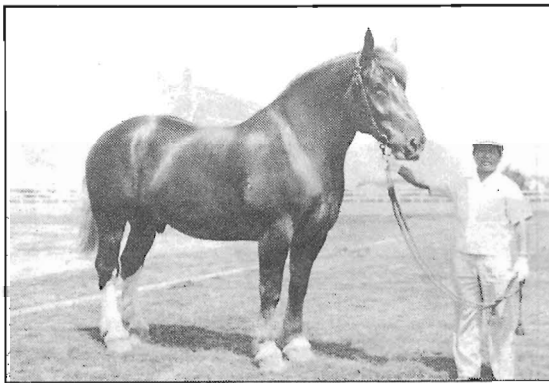
昭和56年度賞金受賞ランキング

年令 順位	3		才	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	シゲノハラニセイ	14	8,422,000 円	
2	キンショウリ	18	6,147,000	
3	タカラソウシン	11	5,420,000	
4	タカラショウリ	12	5,380,000	
5	ロイヤルホース	19	5,307,000	
6	ヤマトコマ	18	5,223,000	
7	イワテタイガー	12	4,557,000	
8	トヨタカ	14	4,527,000	
9	ヒメトカチ	8	4,140,000	
10	カイセイ	15	3,967,000	
11	パワスキー	14	3,943,000	
12	シマノオーザ	19	3,910,000	
13	タカラボシ	11	3,850,000	
14	マルモキロク	19	3,620,000	
15	カイリュウザン	15	3,612,000	
16	アサヒテンリュウ	16	3,575,000	
17	ヤシロショウショウ	9	3,472,000	
18	ハクイチ	12	3,417,000	
19	キタノカイリキ	17	3,382,000	
20	ベルヨシエ	19	3,285,000	

年令 順位	4		才	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	ハイスピード	8	10,990,000 円	
2	ヤマトウンリュウ	18	8,290,000	
3	ヤマト	20	6,605,000	
4	ロイヤルキング	15	4,800,000	
5	リュウハヤテ	16	4,605,000	
6	タカラヨシウメ	5	4,100,000	
7	サクラシエーン	8	3,692,000	
8	ウシオドトー	17	3,680,000	
9	スズホマレ	18	3,140,000	
10	ホマレニシキ	18	3,057,500	
11	ダイニオノショウ	19	2,961,000	
12	ゼットボーイ	19	2,833,000	
13	イワイサミ	16	2,773,000	
14	キタミトップ	10	2,363,000	
15	ハクマサヒカリ	18	2,258,500	
16	カショウウ	19	2,204,000	
17	ササノチカラ	10	2,083,000	
18	ホマレベンケイ	16	2,077,000	
19	ニッショウツバメ	18	2,069,000	
20	ホマレアサヒ	18	2,058,000	

年令 順位	5		才	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	キンタロー	11	11,415,000 円	
2	トカチホシ	13	7,025,000	
3	マルトダンサー	19	5,935,000	
4	カミシホロトップ	16	5,741,000	
5	ホマレタイショオ	20	5,405,000	
6	イデサカエ	22	5,277,000	
7	モンスター	20	4,915,000	
8	ホマレオーザ	19	4,710,000	
9	マコト	20	4,387,000	
10	エイカン	19	4,385,000	
11	ヤシタフジ	20	4,202,000	
12	ソウヤコマ	18	4,042,000	
13	ハツイサミ	19	3,960,000	
14	メイハウザン	19	3,915,000	
15	キョウリュウ	13	3,898,000	
16	ワカタイショウ	19	3,657,000	
17	カミタカラ	13	3,647,000	
18	ドウナンシンザン	17	3,265,000	
19	ホワイトホープ	18	3,230,000	
20	トチヒカリ	18	2,872,000	

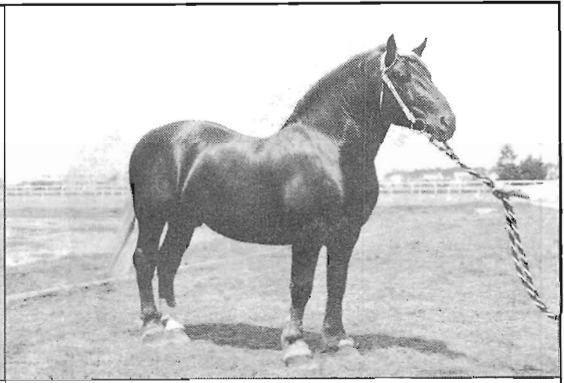
年令 順位	6 才 以 上		才	
	馬名	出走回数	取得賞金	
1	キヨヒメ	18	22,838,000 円	
2	ハヤホマレ	21	16,745,000	
3	キョウエイ	14	15,880,000	
4	キタノフジ	15	13,660,000	
5	カイリキ	18	13,550,000	
6	キンボシ	19	11,725,000	
7	サツキホマレ	20	7,580,000	
8	グランプリ	17	7,310,000	
9	ドラゴンダッシュ	17	6,950,000	
10	アイスリヤル	16	6,387,500	
11	ウチウラ	13	6,065,000	
12	ソラチホウシュウ	17	5,865,000	
13	キョクイチ	19	5,755,000	
14	キンパイ	20	5,485,000	
15	ミスアカイサワ	16	5,325,000	
16	ドウホクチドリ	22	5,165,000	
17	タイヘイボウ	16	5,155,000	
18	シゲミツ	19	5,105,000	
19	ジャスマン	16	5,095,000	
20	イワナミ	14	4,972,000	



キンボシ号

- 1.生年月日 S.47. 4. 5
- 2.生産地 上土幌町
- 3.生産者 矢戸 輝次
- 4.馬主名 松井 武雄
- 5.通算成績 162戦23勝
- 6.取得賞金額 45,329,000円
- 7.血統

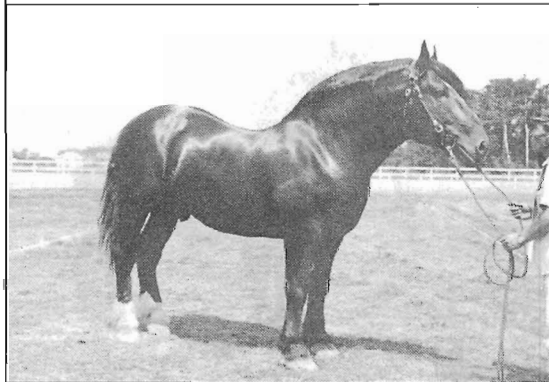
ブル ボヌール — [ブル ジェルフオー
 — [ブル レア
 重半 優望 — [ブル モナコ
 — [重糸 優



オサム号

- 1.生年月日 S.47. 4. 10
- 2.生産地 浦幌町
- 3.生産者 —
- 4.馬主名 松田 昇
- 5.通算成績 138戦12勝
- 6.取得賞金額 10,912,000円
- 7.血統

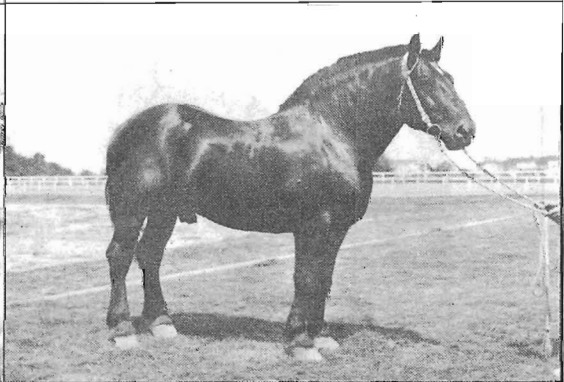
ブル モダイ — [ブル フルサール
 — [ブル ユティリテ
 重糸 修花 — [ハル 修網
 — [重糸 蘭花



クロコマ号

- 1.生年月日 S.47 5.10
- 2.生産地 浦幌町
- 3.生産者 富田 竹夫
- 4.馬主名 佐藤 信行
- 5.通算成績 138戦10勝
- 6.取得賞金額 10,883,000円
- 7.血統

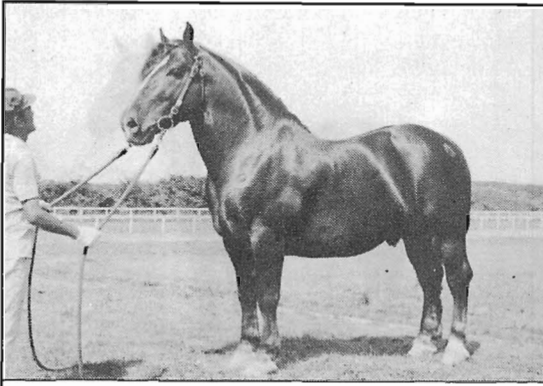
ブル 瑞祥 — [ブル ソイック
 — [中半 善望
 中半 北宝 — [ブル ソイック
 — [重半 初宝



キヨニシキ号

- 1.生年月日 S.47. 3.27
- 2.生産地 美幌市
- 3.生産者 浅井 良一
- 4.馬主名 山本 信育
- 5.通算成績 143戦19勝
- 6.取得賞金額 12,474,000円
- 7.血統

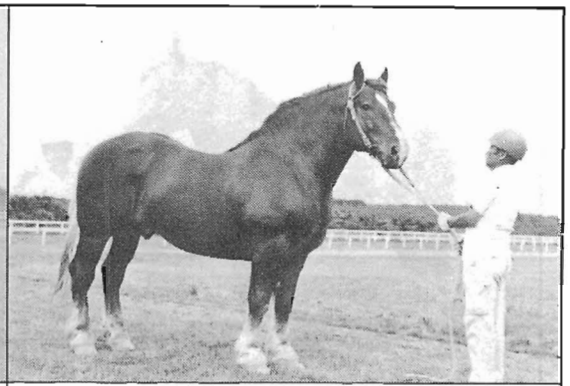
中半 呂竜 — [ブル ロイヤル
 — [重半 榮楼
 中半 清姫 — [ブル ゴケン
 — [中半 清榮



ジャスマン号

1. 生年月日 S.47. 4.20
2. 生産地 豊頃町
3. 生産者 広沢政夫
4. 馬主名 坂下武義
5. 通算成績 145戦19勝
6. 取得賞金額 25,669,000円
7. 血統

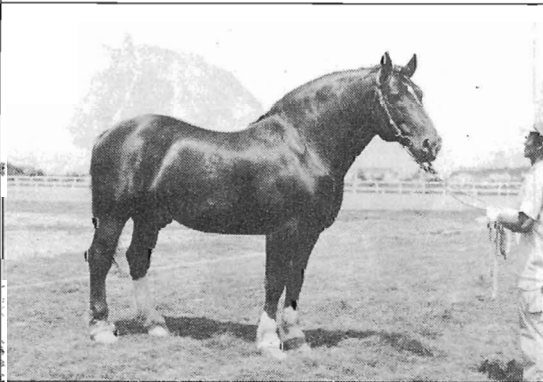
ブル 鉄 輝 — [ブル アンパレール
ブル キャロリーヌ
重半 第1梅進の1 — [ペル 第六エタロン
中半 第六梅進



コマリュウ号

1. 生年月日 S.47. 4.30
2. 生産地 池田町
3. 生産者 戸田富雄
4. 馬主名 鈴木藤吉
5. 通算成績 122戦14勝
6. 取得賞金額 13,224,000円
7. 血統

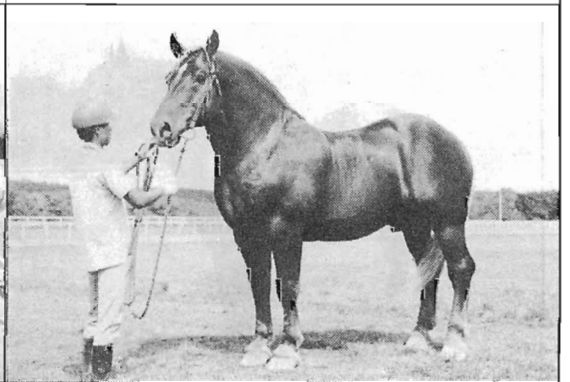
ブル キプロク — [ブル ユーゴー
ブル ユービ
重糸 春 姫 — [重半 鋭 武
ペル 第1豊姫



タカラハヤト号

1. 生年月日 S.47. 5.17
2. 生産地 網走市
3. 生産者 衣笠義雄
4. 馬主名 内田寿江
5. 通算成績 144戦14勝
6. 取得賞金額 10,770,500円
7. 血統

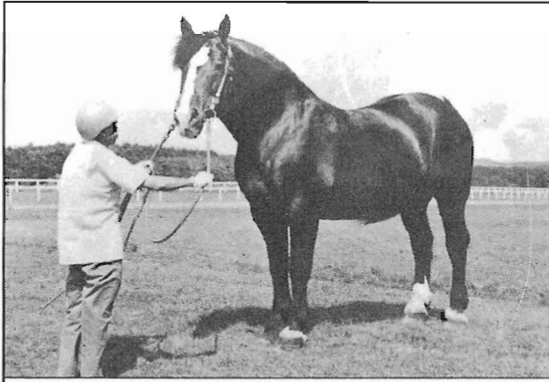
中半 イスラエル2世 — [ブル イスラエル
中半 八重駿
重半 初 桜 — [重半 征 山
重半 春 風



シンザンアサヒ号

1. 生年月日 S.47. 5.10
2. 生産地 池田町
3. 生産者 村田大五郎
4. 馬主名 三浦順子
5. 通算成績 142戦19勝
6. 取得賞金額 11,736,000円
7. 血統

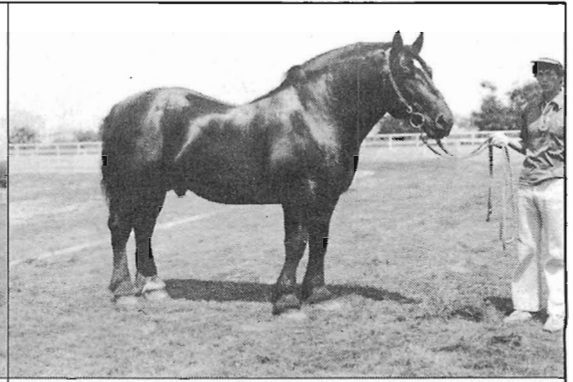
ブル キプロク — [ブル ユーゴー
ブル ユービ
重糸 秀 姫 — [ペル系 秀 烈
重半 桜



ランサー号

1. 生年月日 S.47. 5.20
2. 生産地 豊頃町
3. 生産者 岡崎光明
4. 馬主名 城戸勉
5. 通算成績 131戦12勝
6. 取得賞金額 6,954,500円
7. 血統

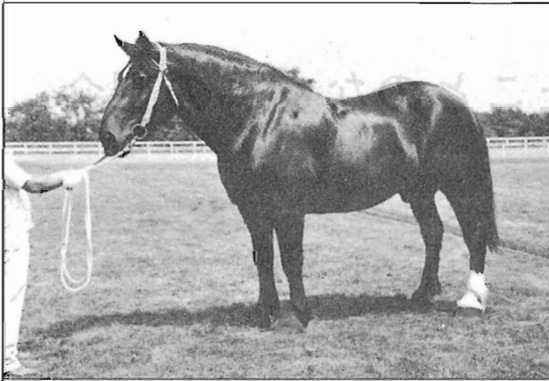
重半 丹風 — [中半 丹宝
重糸 錦風
重半 双葉 — [重糸 安雪
重糸 第二双葉



マイチモンジ号

1. 生年月日 S.47. 5.12
2. 生産地 網走市
3. 生産者 衣笠義雄
4. 馬主名 三田勝美
5. 通算成績 114戦13勝
6. 取得賞金額 8,712,000円
7. 血統

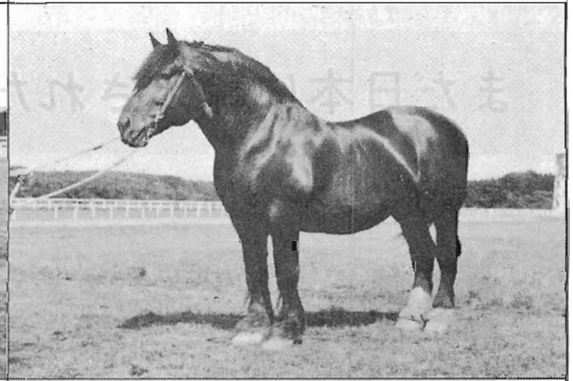
ベル オナシス — [ベル クウン
ベル アンスタンクティブ
中半 第3安姫 — [ブル ナポレオン
中半 安姫



リュウオー号

1. 生年月日 S.47. 4.15
2. 生産地 穂別町
3. 生産者 佐久間孝司
4. 馬主名 中西トシエ
5. 通算成績 114戦15勝
6. 取得賞金額 11,123,500円
7. 血統

ベル 輝彦 — [ベル オデオン
ベル系 輝姫
重半 文化 — [重糸 玉鈴
中半 文華



マジン号

1. 生年月日 S.47. 3.27
2. 生産地 白糠町
3. 生産者 寺下民男
4. 馬主名 山本信育
5. 通算成績 160戦11勝
6. 取得賞金額 17,622,000円
7. 血統

ブル メルキュール — [ブル グラール
ブル アイロリアル
ベル系 第四蘭姫 — [ベル系 宝修
ベル系 第三蘭姫

昭和56年度リーディング



畠中 芳勝

リーディングトレーナー

順位	氏名	勝率(%)
1	畠中 芳勝	18.24
2	氏家 昭	14.04
3	夏井 考	13.02
4	長谷 功	11.64
5	藤田 貞雄	11.62



氏家 昭



工藤 正夫

リーディングジョッキー

順位	氏名	勝率(%)
1	工藤 正夫	17.74
2	久田 守	16.16
3	尾ヶ瀬 富雄	14.01
4	山田 勇作	12.87
5	大友 栄司	12.82



久田 守

天候 雨 馬場水分 三・四%

一着 キヨヒメ
 二着 キヨウエイ
 三着 カイリキ
 四着 キタノフジ
 五着 ダイケツ
 六着 ハヤホマレ
 七着 アイスリヤル
 八着 グランプリ
 九着 マルトダンサー

水上 勲
 工藤 正男
 山本 正彦
 金山 明彦
 喜来 光雄
 山田 勇作
 尾ヶ瀬富雄
 木村 卓司
 西 弘美

本年度ばんえを競走の実力ナンバーワンを決める「農林水産大臣賞典」は十一月十五日、一着賞金六五〇万円をかけて帯広競馬場で開かれた。

このレースには、チャンピオンカップ、北見記念の二重賞を制覇したキヨウエイや、岩見沢記念を制したキヨヒメなど壮々たるメンバーで争われ、キヨヒメが四分十六秒のタイムで一昨年に続き二度目の制覇をかぎった。

キヨヒメ号

農林水産大臣賞典制覇する



キヨヒメ号と水上騎手

キヨヒメ

昭和49年4月10日生 雌8才
 生産地 紋別郡興部町
 父 ベル 楓朝
 母 重系 豊栄
 生産者 松島 太市
 馬主 林 タイ子
 調教師 林 正男

タンブー 朝 禄 月 福永 第2



昭和57年 3 月

札幌市北区北10条西 4 丁目北海道畜産会館 2 階 (TEL) 代表742—5345